

7 身近な地域資源を活かしたまちづくりの実践方策の提案

(1) 各地域のそれぞれの魅力資源を活かしたまちづくり

■地域の風土・歴史・文化の尊重

筆者の姪浜でのまちづくりの哲学は、「地域に埋もれている身近な魅力資源を掘り起こしていくことが、姪浜ならではの地域特性を活かしたまちづくり・景観づくりの土台となる」ということである。その背景には、全国どこに行っても同じような街並みの形成が進む中で、筆者には「姪浜を普通のまちにしたくない」という強い思いがある。これは、姪浜のまちづくりに関わってからのことではなく、大学時代の最初の住宅設計の時から「その場所の特性を最大限に活かし、そこでしかできない設計をする」という考え方を徹底的に身に付け始めたのである。

その後も現在まで、いろいろな地域や集落、建築物等の訪問を通じて、各地域固有の風土や歴史・文化から生まれた歴史的町並みや建造物への興味を持ち続けている。福岡市役所時代には、シーサイドももちの集合住宅「クリスタージュ」、御供所やシーサイドももちの「景観形成地区指定」、福岡都市科学研究所（現 福岡アジア都市研究所）での「広域連携」の研究等の業務の他、プライベートでも浮羽町の棚田オーナーになったり、地域に飛び出す公務員として姪浜のまちづくりに精力的に関わったりしてきた。その根底には、常に地域の風土・歴史・文化の尊重ということがある。筆者は建築やまちづくりに関わり続ける限り、この哲学を譲ることはできない。



地域性豊かな集落景観：エーゲ海に浮かぶイドラ島(左)とハイデルベルク(右)



歴史的文脈を感じさせるパリのグラン・プロジェの例
(オルセー美術館)



浮羽町の棚田オーナーの体験
(美しい棚田の風景を守る活動にも一市民として参加)

■各地域の風土・歴史・文化を活かした町並みの維持継承

地域の風土や歴史、文化が息づく最たる例は、我が国固有の歴史的な町並みであろう。北海道から沖縄まで気候、風土、文化等が異なり、それに応じた個性豊かな町並みが形成されてきた。宿場町や門前町、武家屋敷や城下町、在郷町、社寺町等の多くの歴史的な町並みが、少子高齢化の進行、後継者不足等の様々な課題を乗り越えて、多くの人々の地域への誇りと努力、そして自治体や国の強い支援によって維持継承されている。そして、国内外から多くの来訪者が訪れ、地域の方々との交流を通じて、その魅力を体験体感している。

現在、全国には117(平成29年11月28日現在)の国の重要伝統的建造物群保存地区があるが、それ以外にも各地域に根づく町並みは多く存在する。町並みの維持継承には様々な課題があるが、今後も官民一体となって、各地域固有の風土や歴史を活かしたまちづくりを進めていってほしい。



重要伝統的建造物群保存地区：下郷町大内宿(左)と倉敷市倉敷川畔(右)



魅力的な集落景観：長崎市外海集落(左)と天草市崎津集落(右)

■身近な魅力資源を活かしたまちづくり

しかし、多くの地域で、地域の個性や特性が都市化に埋没して見えにくくなってきているのも事実であり、むしろそうした地域の方が圧倒的に多いのではないだろうか。そうした中、地域の人が見慣れて、当たり前だと見過ごしているものにスポットを当てていくことが、その地域ならではのまちづくりを進める上で重要になる。町並みとして連続していなくても、点在する身近な地域資源を発掘し、それを身近なまちづくりの中で活用していくことで、地域の方々にとっては地域への誇りや愛着につながっていくのである。

例えば、姪浜の場合を例にとると、伝統的な町家が連続しているわけではなく、ややもすると通

り過ぎてしまいそうな町並みであるが、じっくりと歩いてみると多彩な歴史、伝説・物語、数多くの寺社・町家、狭い路地、海、港、魚市場、美味しい魚等の多くの魅力資源が存在する。その中には、地域の方々によく聞いてみないとわからないような「身近なまちかど遺産」を発見することができる。そうした魅力資源を「かわら版」等で地域の方々にわかりやすく伝えていくことが重要である。それが地域への誇りや愛着につながっていくのである。筆者はこうした視点を大切にして姪浜での活動を展開してきたが、これは他の地域でも大いに応用できると考えている。



姪浜の多彩な魅力資源を紹介したまち歩きマップ(「唐津街道姪浜まちづくり協議会」発行)



姪浜の魅力資源集(唐津街道姪浜まちづくり協議会在籍中に筆者作成)



小戸公園の海岸に残るボタ。姪浜に炭鉱があったことを物語る数少ない証しである。



古くからの地場産業であった姪浜石を切り出すための採石場跡



漁や航海の安全を祈願して1年中かけられている注連縄(しめなわ)。漁業や廻船等を生業としていた姪浜浦の伝統が受け継がれている。



昭和 25 年に海豚(いるか)の群れが博多湾に迷い込んできたときに捕まえ、食料にしたことをわびて供養した碑

唐津街道姪浜まちづくり協議会のかかわりで紹介してきた「姪浜まちかど遺産」の例



姪浜の身近な魅力資源を伝える催しの例

※姪浜の魅力資源を活かしたまちづくりについては、第1章参照

(2) 地域に根ざしたまちづくり協議会

まちづくり協議会のあり方については様々な意見があると思うが、筆者の姪浜での経験や訪問してきた各地域の取り組み事例等を踏まえ、『地域に根ざしたまちづくり協議会のあり方』について、「組織の使命（ミッション）」「リーダー（役員）」「会員（ヒト）」「地域資源（モノ）」「ストーリー（コト、こだわり）」「ドーパミンの出るまちづくり」「巻き込み力」の7つの視点でまとめてみた。極めて基本的なことだと思うが、現実的には課題として浮き彫りになっている団体も多いのではないだろうか。各地域でまちづくりに取り組む団体の皆さま方に参考にしていただければ幸いである。

■組織の使命（ミッション）

地域の課題に真摯に取り組むこと＝まちづくり協議会の使命であり、楽しさ

- ・地域に根ざしたまちづくり協議会として、常に地域の課題を踏まえた活動を展開していく必要がある。
- ・まちづくりは決して楽しいものではない。いろいろな地域課題に取り組むことを楽しみながら、粘り強く活動を進めていく必要がある。達成感こそがまちづくりの楽しさである。そして、それが次第に地域に波及・浸透し、共感を得ていくのである。
- ・行政に頼らず、まずは地域で何ができるかを考え、実践することが大事である。地域がまず汗をかき、成果を示し、その上で行政との協働によるまちづくりを進めていく必要がある。

■リーダー（役員）

まちづくり協議会のリーダーに求められるのは、「地域課題の的確な把握」と「総合的な判断力」

- ・まちづくり協議会のリーダーは、地域の課題や協議会全体の動きを的確に把握し、いろいろな人々の意見を聴いて総合的に判断していく必要がある。
- ・リーダーは、地域の中ではいろいろな役職を兼ねることが多いが、協議会の独自色を出し、八方美人的な対応にならないようにするためには、専任または専任に近い形が望ましい。

■会員（ヒト）

まちづくり協議会の会員に求められるのは、「高い志」「前向き思考」「包容力」「相手への配慮」

- ・まちづくりは、志である。それぞれの会員が地域への強い思いを持ち、真摯な気持ちでまちづくり活動に関わることが重要である。
- ・「どうしたらできるのかを前向きに考えること」「他人の意見を傾聴すること」が、まちづくり協議会を運営する上でとても大事なことである。
- ・地域内部の人間だけで、地域に根ざしたまちづくりは到底できない。外部の人を含むいろいろな人（個性）や意見を受け入れる包容力と相手への配慮が必要である。

■地域資源（モノ）

今あるモノを活かすことが大事。新しいモノは要らない。

- ・「地域の魅力資源をどのように活用していくのか」をしっかりと考えていくことが、今もこれからも求められている。地域にある身近な宝（モノ、ヒト、コト）を探求し、しっかりと活用していくことにもっと目を向けるべきである。

- ・今あるモノを活かすことが大事で、新しいモノは要らない。地域にあるモノを見直して、何を加えたらいいのか考えることが重要である。



姪浜での地域資源活用ワークショップの様子

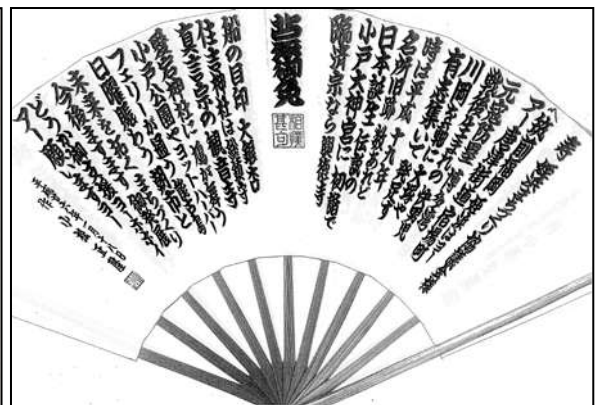
■ストーリー（コト、こだわり）

地域ブランドを構築するのは、「地域らしさ」「情報発信」「地道・粘り」「地域の共感」

- ・地域の個性を活かした地道な取り組みが、地域の魅力を地域内外に発信し、地域の共感を得て、地域ブランドの構築につながっていくのである。
- ・何を行うにしても「マスコミに記事にしてもらえる内容」を常に意識して活動を進めていく必要がある。マスコミを通じた地域への情報発信は、地域の方々の地域への誇りや愛着の醸成につながっていくのである。
- ・「一歩前進、一歩後退」「一歩後退、二歩前進」を繰り返しながら、長期的な目標を持って、ステップアップしながら、粘り強く活動を進めていく必要がある。



マスコミへの情報発信

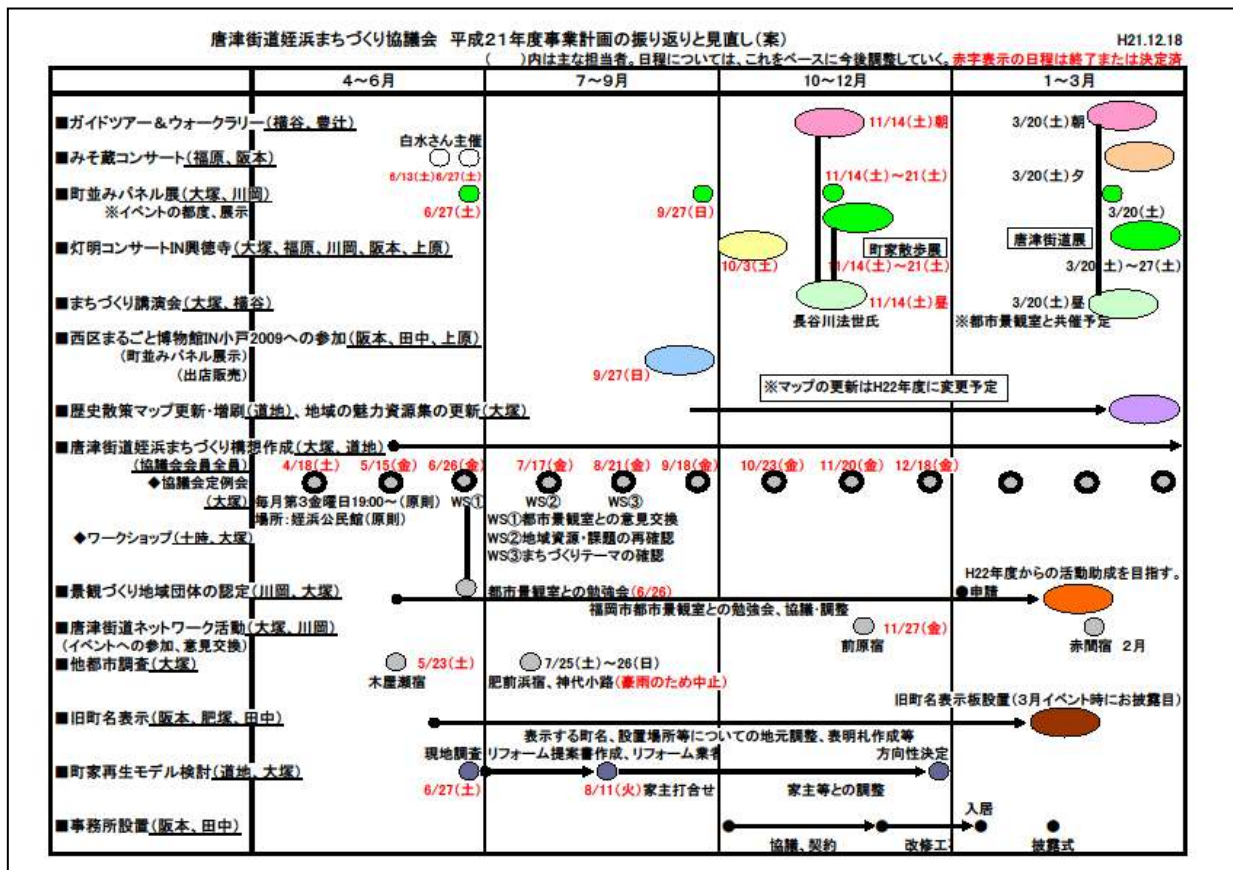


地域の共感例(地域からの相撲甚句の贈り物)

■ドーパミンの出るまちづくり

協議会活動を活性化するのは、「チャレンジ」と「自省」

- ・常に前向きにチャレンジしていくことで、協議会活動も活性化される。現状に満足しては、協議会活動は活性化しない。
- ・小さなチャレンジの連続が、楽しさを生み、協議会活動の活性化につながる。
- ・協議会活動を自省する（振り返る）時間を持つことが、活動が活性化するチャンスである。



唐津街道姪浜まちづくり協議会での小さなチャレンジの連続と活動の振り返り例

■巻き込み力

いろいろな地域課題に取り組みむことがまちづくりの楽しさ

⇒次第に地域に波及・浸透

⇒地域の共感

⇒いろいろな人や団体を巻き込んでいく力



地域の関係団体を巻き込んで進めてきた「唐津街道姪浜景観づくり委員会」

- ・地域の各団体は運命共同体である。自分の団体のことだけを考えていても、地域は活性化しない。相手のことをよく知り、自分の団体に置き換えて考え、相手の価値を認めて敬意を払

うこと（リスペクト）が大切である。地域愛を持って取り組むことが重要である。

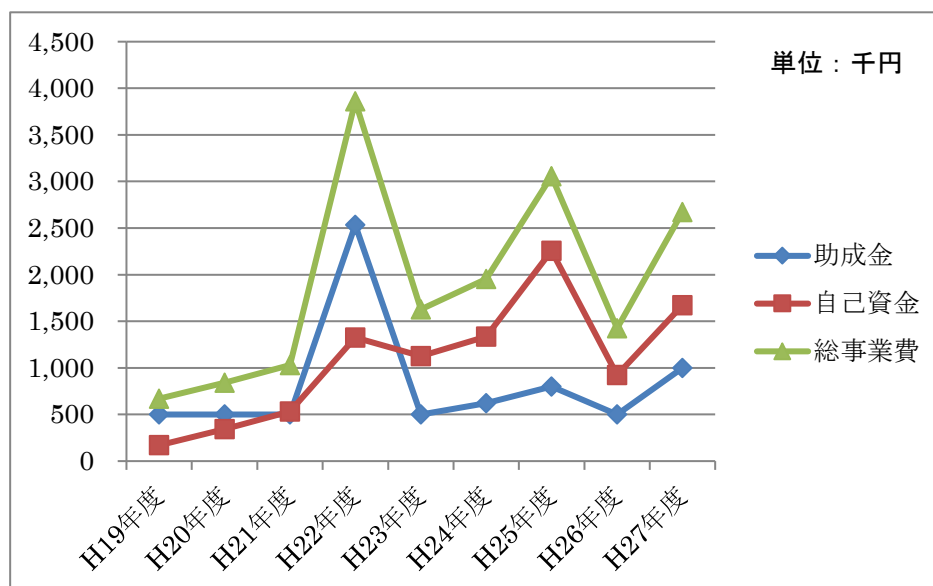
- ・内部の人間だけでは、地域や組織は活性化しない。多くの人を巻き込んでこそ成果が出てくるのである。

コラム7 事務局力

事務局力については、自分事になるのでこれまで敢えて触れてこなかったが、平成28年度作成の活動記録を読まれた方から「事務局力（事務局長力）」についていただいた言葉をいくつか紹介したい。

- 唐津街道姪浜まちづくり協議会のこれまでの活動を支えてきたのは、まさしく事務局力だと思います。
- 長年の姪浜での取り組み、ご苦勞様でした。資料もを見せていただき、改めて継続してこれだけの活動を行うことの意義と、だからこそ事務局長の負担の大きさを感じました。
- 活動されてきた事業のすべてに、想像を絶する事務局長の責任の重みが、ビシビシ伝わってきました。

筆者は他の会員には常々「まずは家庭、次が仕事、まちづくりのプライオリティは3番目で構いません」と伝えてきたが、筆者は事務局長という役柄、毎週末や帰宅後の多くの時間を協議会活動の企画立案やイベント等に費やしてきた。活動費も概ね右肩上がりであり、平均活動費は助成金を含め年間約190万円である。これだけの活動を地域の一団体が継続して行うには、事務局力が備わっていないと難しい。他の地域のまちづくり団体を見ても、しっかり機能し成果を上げている団体は、事務局力がしっかりしている。「組織力＝事務局力」と言っても過言ではない。

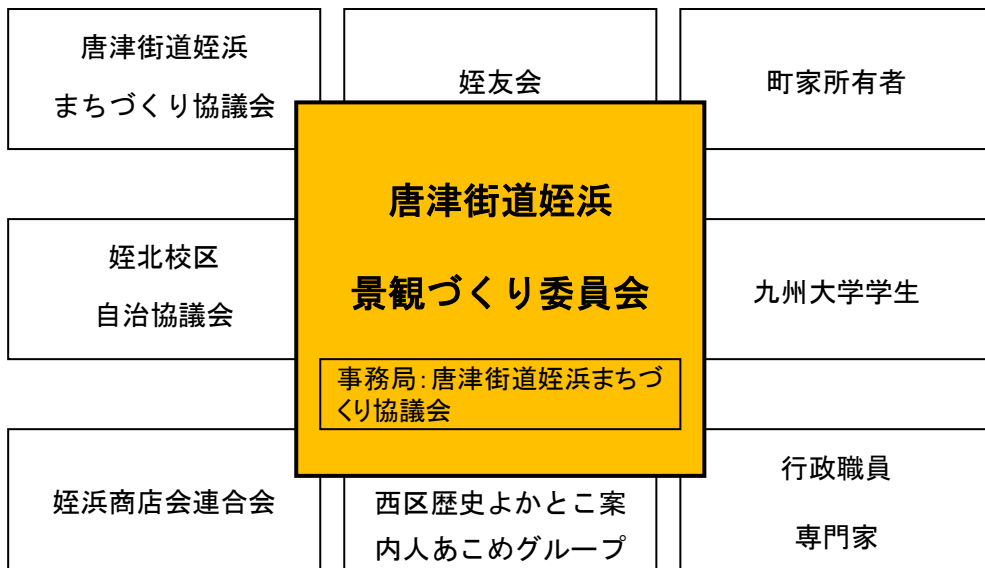


唐津街道姪浜まちづくり協議会における総事業費の変遷(平成19年度～27年度)

(3) 地域内の各団体の連携による活動の広がり

筆者が唐津街道姪浜まちづくり協議会在籍中から一番懸念していたのが、地域内の各団体の連携の希薄さである。自分の団体を運営していくのが精一杯であり、地域全体や他の団体のことを気にかける余裕もないのが実情であろう。

しかし、それでも筆者らは平成 23 年 10 月に「唐津街道姪浜景観づくり委員会」を立ち上げ、景観づくりの検討と合わせ、地域内の各団体との連携を模索してきた。メンバー構成としては、まちづくり協議会が主団体として事務局も担い、姪北校区自治協議会、姪浜商店会連合会、姪友会等の関係団体の他に、町家所有者、九州大学学生、行政職員等にも段階的に参加していただき、平成 26 年 3 月の「景観づくり計画 STEP 2」の策定までワークショップ形式を取り入れながら粘り強く検討を重ねてきた。また、まちづくり協議会の平成 25 年度～27 年度の事業も景観づくり委員会と共催で行うことが多く、地域内の各団体との連携強化に努めてきた。



筆者らが中心になって設置・運営してきた「唐津街道姪浜景観づくり委員会」の主な構成



まちづくり協議会と景観づくり委員会の共催事業の例

唐津街道姪浜景観づくり委員会の延長線上にあるのが「TEAM 姪浜ネクスト」であり、平成 27 年 3 月から準備を重ね、その 1 年後の 28 年 3 月に「姪浜ネクストまちづくり行動委員会」を立ち上げた。まちづくり協議会の設立（平成 19 年 3 月）からちょうど 10 年目である。この委員会では、『元気！姪浜計画』や『景観づくり計画』の実現に向け、地域内の各団体が緩やかに連携し、地域の方々と対話しながら、協働して姪浜地域固有の魅力資源を活かしたまちづくりを実践していくこととしていた。しかし、残念ながら、現在はその理念は大きく後退し、具体的な活動はほとんどできていないのが実情である。

筆者が目指していた姪浜ネクストまちづくり行動委員会の事業内容

- まちづくり実践計画書の策定及び実践
- 景観づくりの地域への普及及び実践
- 姪浜らしさを PR するまち旅プロジェクトの実践
- その他地域課題に対応した取り組み



地域の関係団体を巻き込んで進めてきた
「唐津街道姪浜景観づくり委員会」



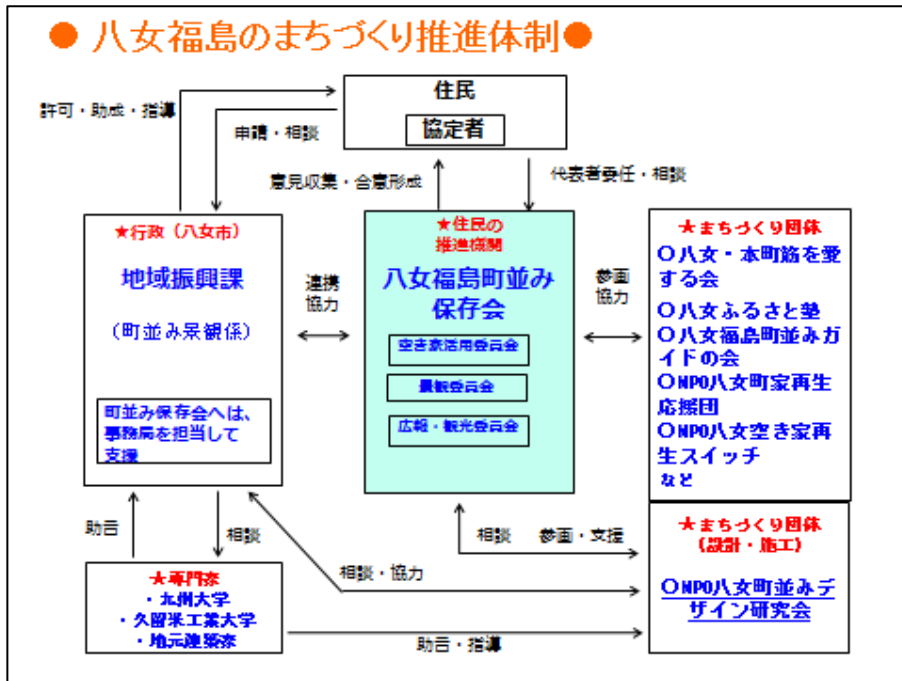
姪浜のまちづくりの次のステージに向けて立ち上げた
「姪浜ネクストまちづくり行動委員会」

先ほどの 7- (2) の「地域に根ざしたまちづくり協議会」で「地域の各団体は運命共同体である。相手のことをよく知り、自分の団体に置き換えて考え、相手の価値を認めて敬意を払うこと（リスペクト）が大切である。」「内部の人間だけでは、地域や組織は活性化しない。多くの人を巻き込んでこそ成果が出てくるのである。」と述べたが、現在の姪浜において地域に根ざしたまちづくりを進める上で『地域内の各団体の連携』が最大の課題であると思う。

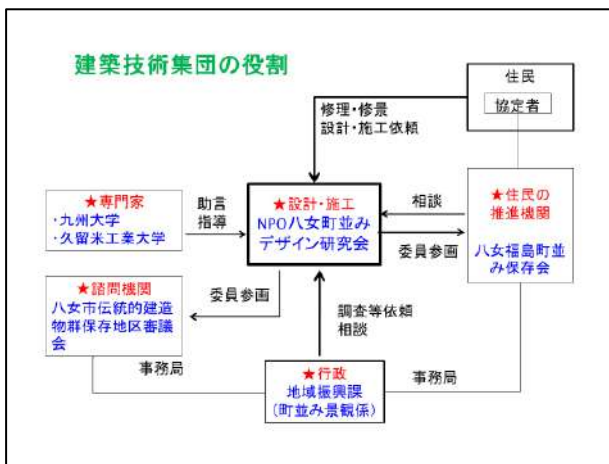
姪浜と対照的なのが八女福島である。第 2 章 6- (1) で述べたが、八女福島においては町並み保存会を中心に、住民、各まちづくり団体、専門家、行政が役割分担しながら連携を取り合っ
てまちづくりを進めている。特徴的なのは「町家の伝統様式や伝統構法を習得し継承していく活動を展開している団体」や「空き町家の保存活用を担う団体」が組織され、相互に連携して活動を展開していることである。様々な地域課題に対し、いろいろな団体を巻き込み、地域全体として取り組んでおり、それが地域全体に波及し、地域の共感を得、その好循環を繰り返しながら町並みの保全整備が進んでいる。八女福島と置かれている状況は異なるが、多くの地域でぜひ参考にしていきたいものである。



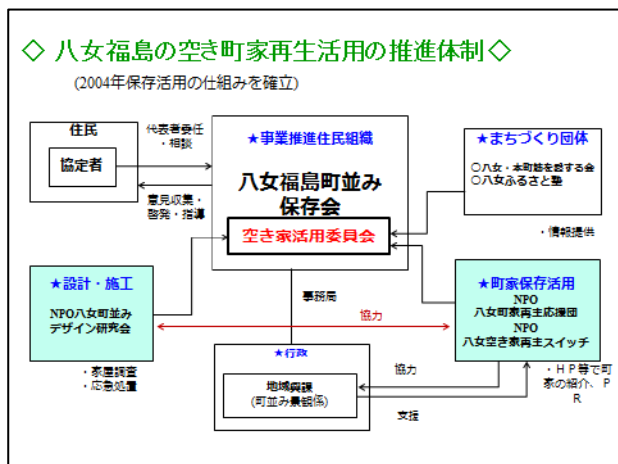
八女福島では多くの団体が協力連携してまちづくりに取り組んでいる。各地域で参考にさせていただきたい。



八女福島のまちづくり推進体制



NPO 法人八女町並みデザイン研究会の役割



八女福島の空き町家再生生活用の推進体制

(3つの表は「第5回九州・沖縄町並みゼミ八女福島大会&第5回まちなみフォーラム福岡 配布資料」より引用)

(4) まちづくりの課題や段階（ステージ）に対応した取り組み

第2章で紹介した地域では、各段階のまちづくりの課題に対応して段階的な取り組みを進めている。例えば、長野県小布施町では、「北斎」という小布施ゆかりの人物をきっかけに、「町並み修景」「花のまちづくり」を進めるなど、暮らしやすく面白いまちづくりを展開し、多くの人々が訪れる町になった。「面白い町をつくる」⇒「来訪者が多くなる」⇒「活気が生まれる」⇒「町はさらに面白くなる」、この好循環の繰り返しにより成功した事例である。これをまちづくりのステージに分けてみると、「北斎館会館」⇒「町並み修景事業と波及効果」⇒「新たな展開へ」と大別できる。

また、新潟県村上市では、道路拡幅を伴う大規模な近代化計画問題に端を発し「町屋を守れ」と始まった市民の取り組みは、地域活性化の起爆剤となり、村上市の進む方向を「歴史を活かしたまちづくり」へと大きく変えた。市民が我が町の文化に気づき、誇りを持ち始めたことが大きな収穫である。現在は、その誇りから、市民自らが町の景観づくりに取り組み始め、さらには空家問題にも取り組み、地域再生の大きな力になっている。

その他の地域でも、各段階の様々な課題に対し、地域内の各団体や行政と連携した粘り強い取り組みにより、多くの成果を上げている。

筆者が精力的に取り組んできた姪浜においても、それぞれの段階のまちづくりの課題や熟度に対応した目標を掲げ、「こだわり」「おもてなし」「多彩」「粘り強さ」「地道」をテーマにした10年間の精力的な活動により、姪浜の魅力及び協議会の活動を全国に発信してきた。現在も多くの課題を抱えており、それにどう対応していくかが問われているが、これについては第3章の8で示したい。

姪浜における各段階の地域課題と活動目標

段 階	地域課題	活動目標
1st ステージ (H19～21年度)	○地域住民自身の地域の魅力の認識不足	○地域の魅力の再認識と地域内外への発信
2nd ステージ (H22～25年度)	○地域のまちづくりの方向性が不明確 ○まちづくりの効果の具現化 (具体的に目に見える形で示す)	○地域協働のまちづくり計画の策定 ○景観まちづくりの実践
3rd ステージ (H26～27年度)	○景観づくりの実践に向けた意識高揚 ○地域の歴史的・景観的シンボルであるマイヅル味噌のみそ蔵の再生・活用 ○みそ蔵に代わる地域のシンボルとなる新たな魅力スポットや、姪浜らしさにこだわった多彩な事業の発掘・発信	○国の登録文化財のみそ蔵を中心とした姪浜のまちなみの個性の再構築 ○次のステージに向けた『姪浜ネクスト』の推進

P103～107は、「まちづくりの課題や段階（ステージ）に対応した姪浜での取り組み」の一覧と具体的な取り組み事例集（抜粋）である。

「参考資料3 まちづくりの課題や段階（ステージ）に対応した姪浜での取り組み事例集」

■まちづくりの課題や段階（ステージ）に対応した姪浜での取り組み一覧

まちづくりの課題 活動の目標		A 主に協議会会員を対象にした活動	B 主に地域内の方々を対象にした活動	C 主に地域外の方々を対象にした活動
まちづくりの ステージ	1st ■課題 地域住民自身の地域の魅力の認識不足 ↓ ■活動目標 地域の魅力の再認識と地域内外への発信	協議会設立 1stステージの方針作成 ↓ 1. 定例会(A-1-1) 2. 地域の魅力資源調査(A-1-2) 3. 先進都市調査(A-1-3) 4. まちづくり活動拠点(まちなみ案内所)の開設・運営(A-1-4)	1. 地域の魅力資源集の作成(BC-1-1) 2. まち歩きマップの作成・発行(BC-1-2) 3. 景観歴史発掘ガイドツアー(BC-1-3) 4. 歴史的建造物での講演会・シンポジウム(BC-1-4) 5. 歴史的建造物でのコンサート(みそ蔵コンサート、灯明コンサート)(BC-1-5) 6. 各種展示会(まちなみパネル展、版画展、町家展)(BC-1-6) 7. マスコミへの情報発信(BC-1-7) 8. 地域の食材を使った料理でのおもてなし(BC-1-8)	
	2nd ■課題 ①地域のまちづくりの方向性が不明確 ②まちづくりの効果の具現化(具体的に目に見える形で示す) ↓ ■活動目標 ①地域協働のまちづくり計画の策定 ②景観まちづくりの実践	1stステージの振り返り 2ndステージの方針作成 ↓ 1. 景観づくり地域団体の認定(A-2-1) 2. 地域の状況を踏まえた効果的な助成金へのチャレンジ(A-2-2)	1. 地域との交流会・活動報告会(B-2-1) 2. かわら版の発行(B-2-2) 3. まちづくり計画の策定(ワークショップ形式)(B-2-3) 4. 景観づくり計画の策定(景観づくり委員会)(B-2-4) 5. 景観まちづくり宣言(B-2-5) 6. 「景観づくりの手引き」の作成(B-2-6) 7. 町家再生の実践(B-2-7) 8. 旧町名表示板の設置(B-2-8) 9. 「姪浜町家」の認定(B-2-9) 10. 地域のシンボル再生活動(B-2-10) 11. 子どもたちを対象にした景観づくり普及活動(B-2-11)	1. 地域づくりネットワーク活動(C-2-1) 2. 景観づくりネットワーク活動(C-2-2) 3. 大学との連携活動(C-2-3) 4. 展示会を主体としたウィークリー事業(C-2-4) 5. 町家活用イベント(C-2-5) 6. 着物でそぞろ歩キト(C-2-6) 7. 「姪浜ブランド」の認定&PR(C-2-7) 8. 全国区の賞へのチャレンジ(C-2-8) 9. 地域からの贈り物(C-2-9) 10. 様々な場面での姪浜のPR(C-2-10) 11. 視察受入&意見交換(C-2-11)
	3rd ■課題 ①景観づくりの実践に向けた意識高揚 ②新たな魅力スポットや、姪浜らしさにこだわった多彩な事業の発掘・発信 ↓ ■活動目標 ①姪浜のまちなみの個性の再構築 ②次のステージに向けた取り組みの推進	2ndステージの振り返り 3rdステージの方針作成 ↓ 地域を取り巻く新たな課題や動向 ①各種受賞を次のステージにつなげる。 ②姪浜の歴史的・景観的シンボルの消失 ③歴史的景観保護に向けた福岡市の取り組みとの連携 ④空き店舗の増加によるシャッター商店街化、空家、駐車場、ワンルームアパートの増加による町並みの個性の喪失 ⑤まちづくりの体制づくりと地域内の各団体の連携 ⑥「今あるモノを活かす」という視点での地域の魅力の再発掘	1. 地域内の各団体の連携によるまちづくりの推進(B-3-1) 2. 空き店舗活用のモデル的实践(B-3-2)	1. 新たなまち旅プロジェクトの開発(C-3-1) 2. win-win-win-win方式によるまち歩きマップの作成・発行(C-3-2) 3. 「まち旅プロジェクト計画」の策定(C-3-3)

A-1-2 地域の魅力資源調査



最初の取り組みとして、地域にどのような魅力資源があるのか、地域の特徴である寺社、町家、路地、塀、お堂、地蔵、石碑、緑等を調査した。協議会で実施したものもあるが、筆者が個人的に調査したものが圧倒的に多い。地域内をくまなく、そして何回も歩いた。歩く度に新しい発見もあり、同じ場所でも季節によって違った表情を見せてくれた。通りかかった地域の方々も声をかけてくれた。こうした地域の方々との出会いも調査の楽しみであった。こうした調査をもとに、「まち歩きマップ」や「地域の魅力資源集」を作成したり、身近なまちかど遺産を「姪浜まちかど遺産」として評価・紹介してきた。

BC-1-5 歴史的建造物でのコンサート②（灯明コンサート）



多くの寺社があることも姪浜の大きな特徴であるが、地域の方々には意外とその歴史や魅力を知らない。灯明コンサートは、音楽だけでなく、普段味わうことのできない幻想的な雰囲気と魅力的な夜間景観を演出し、参加者に姪浜の魅力を伝えていくことを目的に行うものである。平成21年10月に第1回目を開催して以来、これまで5回実施してきた（興徳寺3回、姪浜住吉神社2回）。毎回180～250人が参加。姪浜ならではの空間と時間の中で、至福のひとときを過ごしていただいている。

B-2-9 「姪浜町家」の認定



姪浜には、江戸から昭和初期にかけて建てられた約 100 軒の町家が残っているが、老朽化や後継者不足等の理由で取り壊される家が増えている中で、当協議会が独自に「姪浜町家」に認定することで、価値を再認識していただくきっかけになればと考え、こうした取り組みを始めた。選定に当たっては、当協議会のメンバーが平成 23 年秋から現地調査や所有者へのヒアリングを行い、保存状態や町並みへの貢献度等を総合的に判断し、姪浜町家として認定した。認定した町家の所有者には、当協議会から手作りの認定プレートを贈呈させていただいた。筆者が協議会に在籍中 26 軒の町家を認定した。

B-2-11 子どもたちを対象にした景観づくり普及活動①



次の世代を担う子どもたちにも姪浜の魅力を伝えていきたいと考え、子どもたちを対象にした事業にも取り組んできた。「子どもまちなみ探検隊」では、歴史ある寺社、昔ながらの町家、迷路のような路地、そして蒲鉾や削り節の試食といった姪浜ならではの内容に、参加した子どもたちは興味津々で大満足の様であった。まち歩き後に俳句を詠んでもらい、子どもたちの感性の高さに驚かされたこともある。また、景観回遊路に面した、落書きの酷かったお寺の塀を子どもたちに手伝ってもらい、きれいに修景(塗装)したこともある。

C-2-3 大学との連携活動



これは、九州大学の大学院生や建築学科3年生を対象にしたワークショップである。「今の学生は社会との接点が少なく、何でもできると思込んでいる」ということで、地域に出かけ、実際にまちづくり団体がどのような取り組みをしているのかを学ぶため、企画しているとのことである。一人でも多くの学生に、姪浜というまちに関心を持っていただけたらと思う。社会人になってからも、それぞれの地域のためにまちづくり活動に尽力している人々がいることを認識していただくとともに、こうしたフィールドワークの体験を今後の仕事に活かしてほしいと思う。

C-3-3 「まち旅プロジェクト計画」の策定

<p>姪浜まち旅プロジェクト計画</p> <p>【まち旅を盛り上げていく背景】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域振興まち旅プロジェクトの推進 2 まちの魅力を発信 <p>【姪浜まち旅プロジェクト計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域をより多くの人に発信 2 地域をより多くの人に発信 3 地域をより多くの人に発信 4 地域をより多くの人に発信 <p>2016年5月 産学連携まちづくり協議会</p>	<p>【まち旅プロジェクトの推進】</p>	<p>【まち旅プロジェクトの推進】</p>	<p>【まち旅プロジェクトの推進】</p>
---	-----------------------	-----------------------	-----------------------

『みそ蔵に代わる地域のシンボルとなる新たな魅力スポットや姪浜らしさにこだわった多彩な事業の発掘・発信』という課題を踏まえ、姪浜のまちづくりの次のステージ「姪浜ネクスト」の一環として、地域内の各団体と協働で、姪浜の多彩なよかとこを再発掘・活用する「姪浜まち旅プロジェクト計画」に取り組んできた。これは、姪浜の魅力を地域内外に発信し、身の丈にあった観光スタイル(着地型観光)の定着を目指していくとともに、コミュニティ交流や商店街活性化、地域に対する誇りや愛着の醸成につなげていくものである。

(5) 身近な地域資源を活かしたまちづくりの実践に向けて

これまで、身近な地域資源を活かしたまちづくりの実践に当たり、「各地域のそれぞれの魅力資源を活かしたまちづくり」「地域に根ざしたまちづくり協議会」「地域内の各団体の連携による活動の広がり」「まちづくりの課題や段階（ステージ）に対応した取り組み」の4つの視点で述べてきた。

要約すれば、「モノ（地域資源）」「ヒト（人、組織）」「ストーリー（コト、こだわり）」「継続（続ける）」「変化への対応（新たな課題や動向への対応）」であり、まちづくりで成功している地域では共通していることだと思う。

身近な地域資源を活かしたまちづくりの実践に向けて

◆各地域のそれぞれの魅力資源を活かしたまちづくり

- ・地域の風土・歴史・文化の尊重
- ・各地域の風土・歴史・文化を活かした町並みの維持継承
- ・身近な魅力資源を活かしたまちづくり

◆地域に根ざしたまちづくり協議会

- ・組織の使命（ミッション）
- ・リーダー（役員）
- ・会員（ヒト）
- ・地域資源（モノ）
- ・ストーリー（コト、こだわり）
- ・ドーパミンの出るまちづくり
- ・巻き込み力



◆地域内の各団体の連携による活動の広がり

- ・各団体の垣根を越えた地域全体としての取り組み

◆まちづくりの課題や段階（ステージ）に対応した取り組み

- ・各段階の地域課題⇒目標設定⇒活動の推進⇒振り返り
⇒新たな課題や動向への対応⇒新たな目標設定⇒活動の推進⇒振り返り

※この好循環の繰り返し



◆モノ（地域資源）

◆ヒト（人、組織）

◆ストーリー（コト、こだわり）

◆継続（続ける）

◆変化への対応（新たな課題や動向への対応）

また、筆者が唐津街道姪浜まちづくり協議会の事務局長を務めた期間（平成19年3月～28年5月）は、こうした視点を念頭に置いて活動を推進してきた。活動に当たり事務局長として工夫したことは次の点であり、一定の成果を上げてきた（詳細は第1章2-（1）、2-（2）参照）。

姪浜では町並み形成という点ではあまり成果を上げていないが、「身近な地域資源を活かした継続的で多彩な活動」という点では大きな成果を上げてきており、今後、いろいろな地域で参考にしていれば幸いである。

姪浜でのまちづくり活動のポイント（事務局長として工夫したこと）

- ①各段階の地域課題に対応した長期的展望に立った多彩なまちづくり活動の推進
- ②地域に埋もれている身近な魅力資源の掘り起こし
- ③ヨソモン（地域外の人間）、ワカモン（若者）の視点の活用
- ④計画策定における住民参加、地域との対話や双方向性の確保
- ⑤関係団体、住民、商店、寺社、大学、行政等との協働関係の構築
- ⑥姪浜らしさにこだわった多彩な事業の推進
- ⑦マスコミへの情報発信
- ⑧協議会に参加している地域内外の人々の多様なノウハウ・スキルの活用
- ⑨全国区の助成金へのチャレンジ
- ⑩各種賞の受賞による情報発信



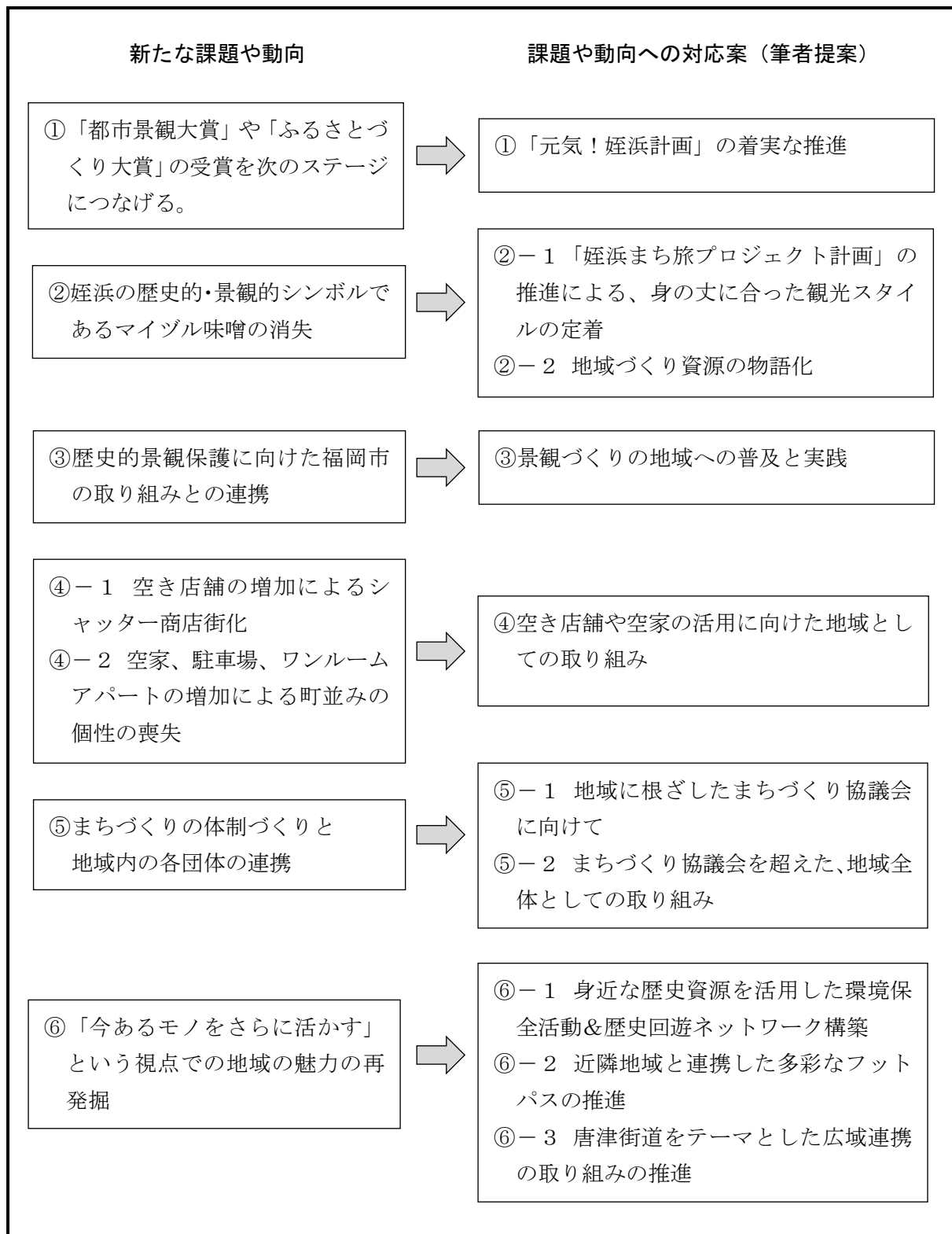
継続的で多彩なまちづくり活動の成果

- ①地域住民の地域への誇りや愛着の創出
- ②活動の広がり
- ③地域の歴史・文化・暮らしを踏まえたまちづくりや景観づくりの方向性の共有
- ④まちづくりの効果を具体的に目に見える形で地域に示す（まちづくりの効果の具現化）。
- ⑤地域資源の保全・活用に向けた意識醸成と双方向のまちづくりへの展開
- ⑥全国的な評価及び姪浜の魅力の全国へのPR、地域への情報発信
- ⑦身近な地域資源を活かしたまちづくりの他地域への波及効果（今後期待）

8 新たな課題や動向を踏まえた、今後の姪浜のまちづくりの展開方策の提案

(1) 姪浜を取り巻く新たな課題・動向と筆者の提案（一覧）

姪浜においては、この10年間の活動で多くの成果を上げたが、その一方で新たな課題や動向も出てきている。以下は、筆者が唐津街道姪浜まちづくり協議会に在籍中に示したものである。また、それに対する対応案も提案している（平成28年度作成の活動記録を一部修正・追加）。



『元気!姪浜計画』（平成 23 年 2 月策定）における実現化方策の実施状況

『元気!姪浜計画』の基本方針と実現化方策		実現化方策の実施状況
基本方針（1）広域回遊ネットワークづくり		
実現化方策①	広域回遊ネットワークの設定	・ H22 年度に設定完了
②	「まち歩きマップ」の制作・配布	・ H22 年度に改訂版制作 ・ H25 年度に現在のまちマップ制作
③	広域回遊ネットワーク普及のための実践活動 ・ 回遊ネットワークを取り入れたまち歩きの実施 ・ 姪浜の個性である「海や港とまちのつながり」をアピールするまち歩きの実施	・ H23 年度から広域コースでのまち歩きも実施（小戸公園までを含むエリア） ・ H26 年度に「遊覧船で巡る福岡の歴史とまちなみ」を実施
④	姪浜と能古島や小呂島とのつながりの活用	・ 未実施
⑤	案内板や標識などの改善計画の提案・推進	・ H23 年度から現況調査 ⇒ 景観づくり計画に反映
⑥	名柄川人道橋整備計画の推進	・ H22 年度に計画作成、行政に働きかけ
⑦	レンタサイクルの導入の検討	・ 未実施
基本方針（2）姪浜のまちの個性の再構築（住まいづくり・町並み景観づくり）		
実現化方策①	町家保存・再生の推進	・ H21 年度からアドバイス開始 ・ H24 年度から「姪浜町家」認定事業開始
②	良好な住まいや町並みの再発見・再評価	・ H22 年度から実施
③	町並み景観計画の提案・推進	・ H23 年度に景観づくり委員会を組織し、段階的に「景観づくり計画」策定 ・ H26 年度に「景観づくりの手引き」作成
基本方針（3）商店街の賑わいづくり		
実現化方策①	若年層やファミリー層などへの「まち歩きマップ」の配布	・ H23 年度から実施
②	若い世代と地域住民との交流の場づくり	・ H22 年度から九大生を対象に実施
③	商店街での小さな休憩コーナーづくり	・ H23 年度から実施
④	近隣農家や漁協などと連携した「市」の開催	・ 未実施
⑤	空き店舗を活用したチャレンジショップの導入	・ 未実施
基本方針（4）姪浜ブランドづくり		
実現化方策①	今ある名産品や優良な店舗の「姪浜ブランド」認定	・ H23 年度から実施
②	新たな「姪浜ブランド」づくり	・ 未実施
基本方針（5）地域を知る場・機会づくり		
実現化方策①	「姪浜学」講座の開催や「姪浜ものがたり」の発掘・継承	・ H24 年度から実施
基本方針（6）環境にやさしいまちづくり		
実現化方策①	地産地消の推進	・ 未実施
②	身近な水辺環境の再認識と保全・改善 ・ 広域回遊ネットワークの普及による水辺への関心や保全・改善意識の醸成 ・ 「港の歴史」や「博多湾の自然環境」を学ぶ「姪浜学」講座の実施	・ H23 年度から関係機関に協力する形で実施（松の植栽、博多湾調査） ・ H26 年度に「遊覧船で巡る福岡の歴史とまちなみ」を開催
③	車に頼らないで暮らせるまちづくりの推進 ・ 広域回遊ネットワークを活用した「環境にやさしいまちづくり」	・ 未実施

※実現化方策の実施状況は平成 27 年9月現在

姪浜ブランドを活用した町並みとコミュニティの再生

～震災を経験した地域の「町並み・コミュニティ再生物語」～

できることから始める地域主体の「景観まちづくり」の実践活動

地域の再生プロジェクト

- 町家の姪浜ブランド認定
- 「姪浜風」の開催
- 姪浜学講座の開催
- 町家コンサートの開催



町並みをつなぐデザインプロジェクト

- 暖簾による景観
- ブロック塀の板張り化



地域コミュニティ再生プロジェクト

- 「みそ蔵」や商店街での交流の場づくり
- 「みそ蔵カフェ」の開催、青空市実験
- ベンチの設置



まちづくり互換による広報

地域の再生プロジェクト



姪浜の町家



姪浜ブランド認定プレート



「姪浜風」

町並みをつなぐデザインプロジェクト



暖簾による景観



ブロック塀の板張り化 (対象地)



ブロック塀の板張り化 (新潟県村上市の事例)

地域コミュニティ再生プロジェクト



みそ蔵カフェ



青空市実験



ベンチの設置

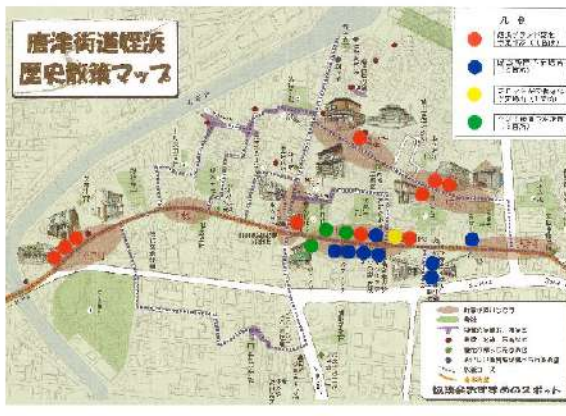
まちづくり互換による広報



※各写真はイメージです。







人のつながりとまちの元気を育む「日だまり」づくり 福岡市西区・唐津街道姪浜地区／唐津街道姪浜まちづくり協議会

協議会の活動地域(旧姪浜地区)の概要

◆**姪浜地区と旧姪浜地区**

- ・姪浜地区(福岡市西区)は福岡市の都心天神の西約6~8kmにあり、臨海部の埋め立て地は住宅地や商業ゾーンとして発展している。
- ・旧姪浜地区は姪浜地区の中心部(住吉神社から半径約500mの範囲)にあり、江戸時代には「姪浜千軒」と称され、現在も倉庫街、寺社街、浜町、廻船町の面影を留めている。

◆**旧姪浜地区の現状**

- ・高岸部の地立で、開発と観光の発展の影響による唐津街道周辺の商店街の活性化
- ・都市化と福岡県西方沖地震による町家の減少、マンションの増加などの町並みの変化

◆**協議会の活動**

- ・旧姪浜地区を中心に、町家、寺社、港、食などを活かした景観づくり、賑わいづくり、地域交流などの活動を推進中である。

姪浜地区全体図

◆協議会の主な活動地域(住吉神社から約半径500m内の旧姪浜地区)

「日だまり」づくりの前提となる計画

◆**「元気！姪浜計画」**

- ・旧姪浜地区や唐津街道を中心とした「住んでよし、訪れて楽し」なまちづくりの実現
- ・平成22年度「住まい・まちづくり担い手事業」により協議会が設立

◆**計画の基本方針**

- ・広域連携ネットワークづくり
- ・姪浜のまちの特性の再発見(住まいづくり・町並み景観づくり)
- ・商店街の賑わいづくり
- ・姪浜ブランドづくり
- ・地域を知る場・機会づくり
- ・環境に優しいまちづくり

◆**「景観景観づくり計画(ステップ1)」**

- ・姪浜景観づくり委員会による景観づくりの提案
- ・ステップ1委員会(協議会会員+地域住民十九州大学大学院生、2011年10月~2012年3月)
- ・ステップ2委員会:2013年2月~(予定)

◆**計画の基本的な考え方(抜粋)**

- ・地域の宝(町家、町並み、寺社、樹木など)を落とす、活かす、町の魅力アップにつなげる
- ・商店街や神社をコミュニティの核(コミュニティの「日だまり」)にする
- ・計画を先導する区域の設定
- ・モデル区域の中心部で集中的に先行事例をつくる「景観づくり重点区域」

「日だまり」づくり

◆**基本的な考え方**

「日だまり」づくりの目的
町並み景観のポイントであり地域交流の核となる空間を美化・継承・活用すること...

- 「人と人のつながり」を生み出す思いの場をつくる。
- 「町並み景観の向上」に対する住民の気づきや実践を促す。
- 「商店街活性化」を目指す。

◆**活動のメンバー**

活動主体:まちづくり協議会会員
協力者:商店会、産協、自治会、「日だまり」所有者など

◆**「日だまり」の位置と現状**

◆**「日だまり」づくりの期待活動内容**

- ～まちなかの3つの「日だまり」～
- ①**買物広場(福岡市所有)**
・老と神による美化、フェンスの修繕、清掃
- ・地域交流・商店街活性化を支援するイベントの開催(姪浜ブランド市・町並みフェスティバル)
- ②**「みそ蔵」・「みそ蔵」(一部:協議会所有管理)**
・地域を学ぶ・伝えるイベントの開催(姪浜学講座など)
- ③**住吉神社**
・地域を学ぶ・伝える歴史シンポジウムの開催
- ～水辺の「日だまり」～
- ④**日だまり(魚市場)**
・日だまり一帯の清掃
- ・海・港・食の拠点づくりの実験(仮設の休憩コーナーの設置)

～「日だまり」を補完し合い～

- ・沿道の美化・モデル修葺(ブロック塀の板張り化や緑化など)
- ・「日だまり」を結ぶイベントの開催(ベジ・ドライブスなど)

◆**協議会の主な活動実績**

景観再生推進ガイドブック、みそ蔵コンサート、町家コンサート、町家再生の講座、「姪浜ブランド」の認定

「元気！姪浜計画」に基づく活動計画の例(上:平成24年1月作成、下:平成25年1月作成)。当時の太田景観づくり委員会委員長と筆者が作成。今後も地域課題に対応した具体的な取り組みを進めていく必要がある。

課題・動向②：姪浜の歴史的・景観的シンボルであるマイヅル味噌の消失

姪浜の歴史的・景観的シンボルであるマイヅル味噌の消失を現実と受け止め、次のステージに向けて、地域内の各団体と協働で姪浜の多彩なよかところを再発掘・活用する「姪浜まち旅プロジェクト計画」に取り組み、姪浜の魅力を地域内外に発信し、身の丈にあった観光スタイル（着地型観光）の定着を目指していく必要がある。また、この計画に取り組みることにより、コミュニティ交流や商店街活性化、地域に対する誇りや愛着の醸成につなげていく必要がある。



地域の歴史的・景観的シンボルであるマイヅル味噌の消失

対応案②ー1：「姪浜まち旅プロジェクト計画」の推進による、身の丈に合った観光スタイルの定着

筆者が、まちづくり協議会在籍中に精力的に取り組んできた「姪浜まち旅プロジェクト計画」には、多くの楽しいアイデアやヒントを盛り込んでいる。久留米市や柳川市では市単位で実施しているが、姪浜だけでも多くのプロジェクトが可能である。この計画をブラッシュアップするとともに、地域全体で取り組んでいただきたい。それが身の丈に合った観光スタイルの定着につながるし、地域の暮らしや人との出会いにもつながっていくものと確信している。

<p>姪浜まち旅プロジェクト計画</p> <p>【まち旅を進めていく背景】……………1</p> <p>【まち旅プロジェクトの実施に向けたモデル的試行】……………3</p> <p>【まち旅プロジェクト推進のための情報発信ツールの整備】……………6</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域住民による多層マップの作成・印刷 2. まちの案内所の整備 <p>【姪浜まち旅プロジェクト計画】……………7</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 誰もが歩きやすい多層マップ 2. 今後考えられるプログラム 3. 今後の課題 4. 実施に向けて <p>2016年3月 唐津街道姪浜まちづくり協議会</p>	<p>【まち旅プロジェクト推進のための情報発信ツールの整備】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域住民による多層マップの作成・印刷 ○参加者の反応やワークショップ、関係団体のヒアリング等を踏まえ、地域発掘まち歩きマップを作成・印刷した。 ・経路の長さ・コース設定（歴史、まちなみ、食、祭り、お薦めのお店等） ・モデル的なまち歩きコース 等 <ol style="list-style-type: none"> 2. まちの案内所の整備 ○平成25年12月に空き店舗を借りて開設した案内所を、地域の情報発信、コミュニティの場となるよう運営するとともに、ここを拠点として様々な多層な観光活動を展開したまちづくり活動を実施している。 	<p>(3) 季節イベント</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歴史散歩と桜の商店街ツアー（春） ○歴史散歩とお祭りツアー（秋） ○散歩でまち歩き（夏、秋） ○遊覧船から見る至大大会（夏） <p>(4) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○寺社詣（伝統や信仰の課題を地域内解決） <p>(6) コンサート</p> <ul style="list-style-type: none"> ○伝統コンサート（真光寺、住吉神社） ○町家コンサート（倉住邸、石蔵邸） ○町家コンサートと高級レストラン料理（真光寺）
---	--	---

姪浜まち旅プロジェクト計画（唐津街道姪浜まちづくり協議会在籍中に筆者作成）

「参考資料4 姪浜まち旅プロジェクト計画（概要版）」

対応案②-2：地域づくり資源の物語化

姪浜には多くの歴史や魅力資源がある。こうしたことを「姪浜読本」として作成・発行して、地域の方々や子どもたちにわかりやすく伝えていくことを提案する。目に見える特徴が失われつつある姪浜において、読み物としてわかりやすく伝えていくことは、大変意義のあることだと思う。その参考になるのが小布施や耳納地域の地域読本である。



小布施の魅力やまちづくりを紹介した「遊学する小布施」(ア・ラ・小布施発行)



浮羽、吉井、田主丸、久留米耳納の伝承や昔話を集めた「みのうの豆本」(みのう悠々交流連絡協議会発行)



その河童族を引き継ぐのが、子河童族(第二世代河童族)です。河童を語りながら田主丸町を活性化させるこの会は、「なんでんかんでん尻のかっぱ」がモットーで義務や強制はいっさいなし。「五分も采てくれた」「こうもしてくれた」の「も」の精神で、なにより自分たちが楽しむことが原点というのは若竹屋十三代目の林田伝兵衛さん。毎年8月8日には「河童大明神」大祭として河童族による「かっぱ祭り」が行われます。子どもたちが河童みこしをかついで町中を練り歩き、鯉の放流、川の中でのバーベキューや花火など、河童になったつもりで楽しむ祭りです。田主丸小学校に子河童クラブができてからは、親河童族、河童族、子河童族の三代そろいぶみ。河童族の遊びの精神と飄々たる夢は、50年たった今も町の中に生きています。

葡萄畑に立つ越智通重。大井上博士の栄養周期説は、あらゆる植物は発芽から枯れるまで同じ育ち方をするのではない、つまり枝が伸び葉が増える春から夏、枝が硬くなり果実が熟する夏から秋と、その段階に応じた手入れや施肥をするという今となっては当たり前のものだった。しかし、在野の学者であったがゆえにその説は日の目を見ず、誕生した巨峰も博士と愛弟子の越智が細々と育てているにすぎなかった。

「みのうの豆本」の抜粋(NPO 法人シニアネット久留米「デジタル・アーカイブ」より引用)

【参考】筆者の提案する姪浜読本のイメージ

※各項目について写真や図表を用いて、わかりやすく解説

◆姪浜の歴史

- ・ 古 代：神功皇后伝説、大陸や南海諸島との交流（中国製、半島製、南海産の出土品）
- ・ 平安時代：唐房（南宋からの渡来人の居住地……旧町名に「当方」）
- ・ 鎌倉時代：元寇、元寇防塁、九州探題（現在の愛宕山あたり）
- ・ 江戸時代：唐津街道宿場町、廻船業、漁業、製塩業等
- ・ 大正時代～昭和 30 年代：早良炭鉱設立～閉山
- ・ 現 在：ベッドタウン、臨海部の大型商業施設（埋立地等）

【補足】姪浜年表

◆姪浜に古くから伝わる物語・伝承

- ・ 白うさぎ伝説（興徳寺関係）
- ・ 武内宿禰伝説（真根子神社関係）
- ・ 探題塚伝説
（鎌倉幕府が元軍の来襲に備えて探題を置いた場所）



◆姪浜のお宝（魅力資源）

- ・ 寺社
- ・ 町家町並み
- ・ 路地、道の形、お堂、祠（ほこら）、塀、姪浜石
- ・ 四季の変化（緑、花）
- ・ まちかど遺産
- ・ 地元で獲れる新鮮な魚
- ・ 地元で作って売るお店
- ・ 美味しい魚料理を提供してくれるお店
- ・ 町家を活用して若い人が始めるお店
- ・ 周辺の魅力スポット

【補足】姪浜が舞台となった映画、小説等



◆これまでのまちづくり活動の振り返り

- ・ 活動のきっかけ
- ・ まちづくりの課題や熟度に対応した多彩な活動
- ・ 活動のポイント
- ・ 活動の成果

【補足】まちづくり年表



◆多彩な魅力資源を活かしたまちづくりに向けて

- ・ 新たな課題と動向
- ・ 課題への対応策
- ・ 地域内の各団体の連携によるまちづくり

【補足】姪浜まち旅プロジェクト計画



課題・動向③：歴史的景観保護に向けた福岡市の取り組みとの連携

福岡市では歴史的景観を保護していくため、「御供所・冷泉地区」「舞鶴・大濠公園地区」など市内の5つの区域を歴史的資源周辺区域として指定し、平成28年10月からこれらの区域で景観づくりの取り組みを強化（届出対象建築物の拡大）している。そのうちの1つが唐津街道姪浜地区であり、筆者らのこれまでの取り組みの大きな成果である。

行政側の届出対象建築物の拡大だけでなく、これを機会に地域としても景観づくりの取り組みを進めていく必要がある。筆者がまちづくり協議会在籍時に積極的に取り組んできた「姪浜景観づくり計画（景観づくりの手引き）」「姪浜景観まちづくり宣言」を地域にいかに関与・浸透させていくのか、また行政と協働して具体的な景観づくりのルールをどのように策定していくのか、地域としてしっかり取り組んでいかないと、本当に個性のない普通のまちになってしまうであろう。姪浜の地域力が今こそ試されているのである。



福岡市内の5つの歴史的資源周辺区域
(H27.9.1西日本新聞)



景観形成への配慮が求められる高層マンション群

対応案③：景観づくりの地域への普及と実践

「元気！姪浜計画」の中で重点事業と位置付けている景観づくりの取り組みについては、「姪浜景観づくり計画STEP1、2」及びそれを踏まえた「姪浜景観づくりの手引き」を作成したが、地域への普及活動はほとんど進んでいないのが現状である。この手引きをしっかりと活用して、地域を巻き込んだ取り組みを進めていく必要がある。



姪浜景観づくりの手引き(「唐津街道姪浜まちづくり協議会・唐津街道姪浜景観づくり委員会」発行)



景観づくりの区域の考え方(「姪浜景観づくりの手引き」より引用)

そのためには、まずは唐津街道姪浜まちづくり協議会の会員にもっと景観づくりに関心を持っていただきたい。例えば、いろいろな地域に出かけ、それぞれの地域の魅力を感じ、その地域の方々と交流・対話することも必要だと思う。姪浜とは置かれている状況は異なるが、それぞれの地域の取り組みを参考にしながら「姪浜の魅力資源をどのように活用していくのか」についてしっかり考えていくことが必要である。その地域や場所でしか体験できないことを体感し、考えることが、次の地域づくり・景観づくりにつながるのである。

身近な例としては、福岡県内の歴史的町並みなど地域遺産の保存継承や活用を目的としてまちづくりを進めている「まちなみネットワーク福岡」に所属する団体の取り組みが、景観形成だけでなく、関係団体との連携等の面で大いに参考になると思う。

そして、忘れてはいけないことは、唐津街道姪浜まちづくり協議会は、博多部の御供所まちづくり協議会に続き、福岡市内で2番目に福岡市都市景観条例に基づく「景観づくり地域団体」に認定されていることである。福岡市では歴史的景観を保護していくため、唐津街道姪浜地区を歴

史的資源周辺区域として指定し、平成28年10月から景観づくりの取り組みを強化（届出対象建築物の拡大）している。これと連携した取り組みをまちづくり協議会が主体となり、地域を巻き込んで進めていく必要がある。その際、景観づくり地域団体として先輩にあたる御供所まちづくり協議会との意見交換会や交流活動も有効だと思う。

また、筆者が平成23年度に提案し、27年度の街なか再生助成金（区画整理促進機構）の採択により、ようやく実現した暖簾設置事業についても、一時的な取り組みではなく、景観形成の取り組みが求められる重点地区（唐津街道、旧魚町通り）から継続的に進めていく仕組みを作り、地域に波及させていく必要がある。



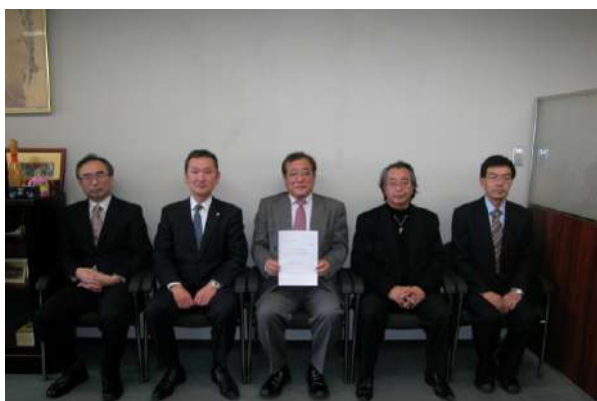
景観に関する勉強会



先進都市視察



まちなみネットワーク福岡が毎年開催している「まちなみフォーラム福岡」



景観づくり地域団体の認定(平成22年3月)
 (「福岡市都市景観室」提供)



暖簾設置事業(京都市西陣大黒町の事例)

課題・動向④：空き店舗の増加によるシャッター商店街化

空家、駐車場、ワンルームアパートの増加による町並みの個性の喪失

空き店舗の増加によるシャッター商店街化は、姪浜に限らず全国的な課題である。空家も少しずつ増えてきており、管理不全空家等になる前に活用するなどの検討が望まれる。また、最近では駐車場やワンルームアパートの進出も著しく、町並みの連続性が損なわれ、個性のない町並みになりつつある。こうした課題に対して、まちづくり協議会が中心となり自治協議会、商店会等と連携して、地域として危機感を持って取り組んでいく必要がある。



空き店舗の増加



空家の増加



駐車場の増加



狭い路地沿いにもワンルームアパートの進出

対応案④：空き店舗や空家の活用に向けた地域としての取り組み

空き店舗や空家の活用について、まず、まちづくり協議会や地域で取り組むことは、空き店舗や空家の存在が、姪浜のまちづくりにとって何が問題なのかを認識する必要がある。問題点や課題を把握した後は、空き店舗や空家の実態調査を行うことが望ましい。最初は詳細な調査ではなく、まち歩きをして、それを地図に落とし込むぐらいの全体把握程度の調査で構わない。

筆者は市役所の業務（空家対策）の一環で、平成28～29年度に福岡県や（公社）福岡県建築士会の協力を得て、姪浜に建築士を派遣しワークショップをしてもらったが、こういう機会をきっかけに空家への関心を高めていただきたい。



空家の実態調査(イメージ)

また、まちづくり協議会が空家活用のコーディネーター的役割を担い、空家所有者や空家活用希望者から相談があった場合に、貸したい人と借りたい人の中に入り、活用方法等について具体的に提案していくことや、そうした人材を育てることも今後のまちづくり協議会の役割であると思う。空家活用プロジェクトもその一例である。



①リフォーム前



②リフォーム中



③リフォーム後



④活用風景

空家活用プロジェクト(空き店舗をまちづくり協議会の案内所として改修・活用)

課題・動向⑤：まちづくりの体制づくりと地域内の各団体の連携

上記のような新たな課題や動向に対応した施策を進めていくためには、地域としての体制づくりと各団体の連携が重要である。

まず、中心的な役割を果たすべき唐津街道姪浜まちづくり協議会においては、まちづくり団体としての活動内容が平成28年度以降大幅に縮小し、活動の方向性が見えない状況であると筆者は感じている。筆者が代表を務める「まちなみネットワーク福岡」に所属する他の団体の取り組みと比較すると、「まちづくりへの意欲」「地域課題の認識と対応」「地域の共感」「地域の巻き込み力」等で大きな差が出てきているのではないだろうか。

また、姪浜にはいろいろな団体があるが、それぞれの枠組みの中でしか活動できていないと思う。各団体を運営するだけでも大変なことはわかるが、地域全体の課題はそれぞれの団体の枠を超えて取り組む必要があるのではないだろうか。各団体でできることは限られており、姪浜全体の次のステージを見据えながら、各団体が枠を超えて、ゆるやかに連携して地域の課題に取り組んでいく必要がある。今がその時期なのである。

対応案⑤-1：地域に根ざしたまちづくり協議会に向けて

これは、第3章7-(2)の再掲である。唐津街道姪浜まちづくり協議会においては、一つひとつの言葉の持つ意味をしっかりと考え、高い志を持って姪浜のまちづくり課題に取り組んでいただきたい。この中で筆者が特に伝えたいことは、「いろいろな地域課題に取り組むことを楽しみながら、粘り強く活動を進めていただきたい。達成感こそがまちづくりの楽しさであり、それが次第に地域に波及・浸透し、共感を得ていくのである。」ということである。

地域に根ざしたまちづくり協議会に向けて（概要）

■組織の使命（ミッション）

地域の課題に真摯に取り組むことが、まちづくり協議会の使命であり、楽しさである。

■リーダー（役員）

まちづくり協議会のリーダーに求められるのは、「地域課題の的確な把握」と「総合的な判断力」である。

■会員（ヒト）

まちづくり協議会の会員に求められるのは、「高い志」「前向き思考」「包容力」「相手への配慮」である。

■地域資源（モノ）

今あるモノを活かすことが大事。新しいモノは要らない。

■ストーリー（コト、こだわり）

地域ブランドを構築するのは、「地域らしさ」「情報発信」「地道・粘り」「地域の共感」である。

■ドーパミンの出るまちづくり

協議会活動を活性化するのは、「チャレンジ」と「自省」である。

■巻き込み力

いろいろな地域課題に取り組むことが、まちづくりの楽しさである。それが、次第に地域に波及・浸透し、共感を得、いろいろな人や団体を巻き込んでいく力になるのである。

対応案⑤-2：まちづくり協議会を超えた、地域全体としての取り組み

地域は運命共存体である。これからは各団体の枠を超えて、地域全体としてまちづくり課題に取り組む視点が重要である。

- ・地域全体の課題に対して、姪浜全体の次のステージを見据えながら、各団体が枠を超えて、幅広い視点でまちづくりに取り組んでいく必要がある。
- ・自分の団体のことだけを考えていても地域は活性化しない。相手のことをよく知り、自分の団体に置き換えて考え、相手の価値を認めて敬意を払うこと（リスペクト）が大切である。地域愛を持って取り組むことが重要である。
- ・みそ蔵の消失を無駄にせず、これを機会に地域の総力を挙げて、姪浜ならではのまちづくりを進めていく必要がある。
- ・今後は町並みとして目に見える形で成果を出していく必要がある。そのためには、地域の住民や関係者の今まで以上の「姪浜への想い」と、それを実現化するための熱意と実行力が不可欠である。



多くの関係者の協力を得て行われる「まちなみフォーラム福岡」の活動。筆者は大川、内野宿、津屋崎、八女福島フォーラムに参加したが、受け入れ先となる地域の各団体がしっかり連携して取り組んでいた。姪浜でも大いに参考にしていきたい。

次ページは、姪浜を取り巻く新たな課題や動向に対応していくため、筆者が「TEAM 姪浜ネクスト」としての今後の取り組みの考え方を示したものである（平成28年3月）。「まちづくり協議会を超えた、地域全体としての取り組み」が今こそ求められているのである。

⑤ 新たな課題や動向、そして次のステージに向けて各団体でどう取り組んでいくのか？

- 人（企画できる人、汗をかく人、時間を提供する人）？
- 活動資金？
- 実践力（行動力）、事務局力？
- 後継者？
- 地域の現状に対する問題意識や危機感？
- 活動目標をしっかりとっていますか？
- 軽浜をどううちにしたいのですか？
- 自分たちの組織でできること & いろいろな組織と連携することができるかどうかについて考えたことがありますか？

⇒ 「地域を元気にしたい」ということは共通目標
⇒ 地域内の各団体の協働・緩やかな連携へ

1

8. 『TEAM軽浜ネクスト』としての今後の取り組み(案)

- ① 景観形成の基準づくり
(景観条例に基づく「景観協定」「景観形成地区」等)
- ② 歴史的な環境を活かした景観まちづくりの実践
(町並み修理・修景事業、町家再生事業等)
- ③ 地域づくり資源の物語化
(地域の歴史や景観的魅力を「軽浜読本」等により、わかりやすく伝える。)
- ④ こだわりとおもてなしの町並みイベントの継続・充実
(軽浜まち旅プロジェクトの推進)
- ⑤ 商店街の活性化、地域コミュニティ活性化に向けた活動
(空き家活用事業等)
- ⑥ 身の丈に合った観光スタイルの定着
(多彩な魅力資源の活用、地域の暮らしや人との出会い)

2

軽浜流まちづくりに向けて



④ こだわりとおもてなしの町並みイベントの継続・充実

3

【例1】軽浜を築立つすべての子どもたちを対象にした景観普及活動の実施を目指します。



4

【例2】みぞ蔵に依存しない、新たな「軽浜まち旅プロジェクト」に取り組みます。



5

【例3】地域の総力を結集して軽浜の多彩なよかところを活かしたまちづくりを推進していきます。



6

【例4】「地域との対話と具体的な実践」をテーマに、空き店舗を再生・拠点とした軽浜ネクスト推進事業を実施します。



7

【例4】空き店舗を再生・拠点とした軽浜ネクスト推進事業（予定）

- 空き店舗を再生・活用したまちの案内所の運営
 - ・ 空き店舗活用モデル事業として地域へのPR
(空き店舗活用地域内への波及)
 - ・ 情報発信、コミュニティの場としての活用
- 軽浜ネクスト・まちづくり行動委員会（TEAM軽浜ネクスト）の運営
 - ・ まちづくり実践計画書策定
 - ・ まちづくり実践計画書を踏まえたモデル事業の実施
(案内所周辺の店舗への暖簾設置によるまちなみ修景)
- 地域への活動報告
 - ・ かわら版に代わる季刊ニュースレターの発行

8

筆者が提案した「TEAM 軽浜ネクスト」としての平成 28 年度からの取り組み方針案(平成 28 年3月)

課題・動向⑥：「今あるモノをさらに活かす」という視点での地域の魅力の再発掘

前記⑤の「地域内連携」と関連するが、「今あるモノをさらに活かす（地域の魅力資源の再発掘と活用）」という視点で、地域としていろいろなアイデアを考えていく必要がある。筆者がまちづくり協議会在籍中に構想していた「環境保全」「広域連携」の視点を踏まえた案を3つ紹介したい。

対応案⑥ー1：身近な歴史資源を活用した環境保全活動&歴史回遊ネットワーク構築

姪浜周辺を広域的に見ると「福岡タワー」「愛宕神社」「能古島」「博多湾」という4つの眺望ポイントが存在する。こうした視点場から見る福岡市のコントラストのある景観は魅力的であり、福岡市の都市形成の歴史を垣間見ることができる。



能古島からシーサイドももち方面を見る



福岡タワーから姪浜方面を見る



愛宕神社から能古島方面を見る

愛宕神社からシーサイドももち方面を見る

これを姪浜地域内で見てみると、鎌倉時代からの歴史のある3つの丘（探題塚、興徳寺山、丸隈山）がある。このうち、興徳寺山はお寺で整備中であり、丸隈山はボランティアの皆さまが草刈りや清掃をしている。しかし、探題塚は全国に誇る歴史資源でありながら、この存在を知る人はほとんどいない。また、境内は手入れされているが、その奥は姪浜や博多湾を一望できる場所にありながら、やぶ山のようになっており、足の踏み場もなく、極めて閉鎖的な状況である。

そのため、身近にある探題塚という歴史資源にスポットを当て、子どもたちや地域住民の環境学習や歴史学習の場として活用させていただき、地域に開かれた開放的な空間づくりを通して、地域への誇りや愛着を醸成していくものである。歴史的物語を有する興徳寺山、丸隈山と合わせて、将来的には3つの丘による新たな歴史回遊ネットワークを構築できる。

3つの丘(探題塚、興徳寺山、丸隈山)の位置



【探題塚】

【興徳寺山】

【丸隈山】



西福岡マリナタウンより



山門付近より



対岸の姪浜魚市場付近より



万正寺付近より



名柄川付近より



途中の散策路



探題塚



整備中の境内



頂上付近(毘沙門天)

3つの丘(探題塚、興徳寺山、丸隈山)の位置とそれぞれの現況
(上の図は「元気！姪浜計画」をもとに筆者作成)

探題塚

探題塚は鎌倉幕府が元軍の来襲に備えて探題を置いた場所であり、鷲尾城（現在の愛宕山）や防塁を築造したり、点検報告を各守護にさせていた。初代探題が北条時定であり、弘安5年（1282年）以降姪浜浦山館（万正寺山）でその任務に当たった。その後、足利一族が探題となり、幕府の任命する最後の探題・渋川堯頭は、ここ万正寺山で戦死した（1534年頃）。この堯頭を葬ったのが探題塚である。即ち250年の長きにわたって防塁を構築し、外敵の侵攻から日本の国土を護ってきたものであり、姪浜は日本の国防の第一線であった。



探題塚のある万正寺山

【探題塚の現況】



探題塚に行く階段



探題塚(ここまでは手入れされている) 探題塚の一角にある埴安神社



探題塚の奥。やぶ山ようになっており、足の踏み場もない状況である。



枝を剪定すると、姪浜の市街地や博多湾が一望できる。



盃状穴のある大きな石も存在する。古くから信仰の場所であったと思われる。

【活動イメージ】



探題塚に関する調査、ワークショップ



樹木の伐採※



枝の剪定※



草刈り※



散策路整備※



桜の苗木植栽※



感謝状・記念品贈呈※



環境学習を終えて、参加者で記念撮影※



探題塚 PR イベント(まち歩きイベント、お花見コンサート※) (※※の写真は yahoo 画像等より引用)



【活動後のイメージ】



境内と一体となった見通しのきく開放的な空間へ※

【将来イメージ】



姪浜の桜の名所へ※



姪浜の市街地や博多湾を一望できる展望空間へ



姪浜の市街地や博多湾を一望できる展望空間へ※（※※の写真は yahoo 画像等より引用）

また、姪浜には鎌倉時代に限っても、探題塚だけでなく、元寇防塁跡、元寇の時代からの歴史のある興徳寺など、全国に誇れる身近な歴史資源が数多くあるが、こうした活動がきっかけとなり、歴史資源のネットワーク形成及び歴史まちづくりの推進に大きく寄与できるのではないかと考えている。

※探題塚は現在、安全上の問題もあり、探題神社保存会や姪浜校区自治協議会等により、境内の奥に行けないようフェンスが設けられている。毎年の探題様まつりや史跡案内等を通じて地域の皆さんの関心を深め、探題塚への誇りや愛着を高めることで、開放される空間が少しずつ広がっていくことを期待したい。

対応案⑥ー２：近隣地域と連携した多彩なフットパスの推進

「フットパス」とは、イギリスを発祥とする『森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと【Foot】ができる小径（こみち）【Path】』のことである。本場イギリスではフットパスが国土を網の目のように縫い、国民は積極的に歩くことを楽しんでいる。近年、日本においても様々な地域において、各々の特徴を活かした魅力的なフットパスが整備されてきている（日本フットパス協会 HP より）。



フットパスの事例（「日本フットパス協会 HP」より引用）



筆者が体験した福津市津屋崎での古墳群を巡るフットパスウォーク

都市化の進んだ姪浜やその近郊においては、こうした定義通りのフットパスは難しいかもしれないが、多彩な魅力資源（自然的資源、歴史的資源、都市的資源）を歩いて巡るコースの設定は可能であり、福岡型の新たなフットパスの実現も可能である。以下に筆者の私案を紹介したい。

【都市・歴史・自然の風景を楽しむトライアングルフットパス構想】

対象エリアは「シーサイドももち」「姪浜」「能古島」の3つのエリアと「博多湾」である。シーサイドももちには新しい都市景観、姪浜は多彩な歴史、能古島は歴史と自然が特徴であり、各エリアで特徴的な緑道、海浜公園、路地、自然の探勝路等があり、多彩な魅力を体感できる。また、前述したとおり「福岡タワー」「愛宕神社」「能古島」「博多湾」という4つの眺望ポイントがあり、福岡市のコントラストのある景観や都市形成の歴史を感じることができる。

ルートとしては、各エリア内、2つのエリア、3つのエリアといった組み合わせが可能であり、広域的で変化に富んだまち歩きを楽しむことができる。健康ブームの中、多くの市民がウォーキングを楽しまれており、各エリアの多彩な魅力資源を巡るいろいろなコース設定をすることで、

地域の魅力を体感体験しながらまち歩きを楽しむことができる。

各エリアの特徴等

	シーサイドももち	姪浜	能古島	博多湾
魅力資源	都市景観 景観に配慮された建築物	歴史 寺社 町家町並み 路地 元寇防塁跡	自然 歴史 アイランドパーク	海（博多湾） 周囲の自然景観 （海、山、緑）
眺望ポイント	福岡タワー	愛宕神社	島の至る所（アイランドパーク、自然探勝路等）	フェリー
考えられるルート	東西南北の緑道 河川沿いの緑道 海浜公園	愛宕神社参道 唐津街道 狭い路地 海浜公園 海沿いの遊歩道 松林の中の散策路	自然探勝路	能古渡船場～能古島（フェリー、海上タクシー）
推進体制	各エリアのまち歩きのガイド団体・グループ・人 まちづくり団体・グループ・人			
必要なツール	お薦めのコースを紹介した全体のマップ 各エリアの魅力資源を紹介するマップ			

全国で進められつつあるフットパスは、地域の魅力を再発見し、ウォーキングを中心にした現地での体験・交流の中で、その魅力を来訪者に感じていただくことで、地域への誇りや愛着の向上、ひいては地域の活性化につながると考えられている。

筆者は、フットパスは自然の風景の中だけでなく、成り立つのではないかと考えている。シーサイドももちは埋立地であり、近代的な都市景観や建築物が特徴であるが、東西南北の緑道、河川沿いの緑道、海浜公園等の公共空間の他、民有地においても緑豊かな景観づくりが進められており、都市的な環境の中にも豊かな自然環境が形成されている。また、姪浜においても愛宕神社参道、海浜公園、小戸から生の松原にかけての海沿いの遊歩道や松林の中の散策路（元寇防塁等の史跡もある）等がルートとして考えられ、その中で地域の歴史や文化等を感じてもらうことができる。大上段に考えることなく、地域や個人でできることから取り組んだらいいのではないだろうか。

「シーサイドももち」「姪浜」「能古島」、そして「博多湾」の組み合わせによる『都市・歴史・自然の風景を楽しむトライアングルフットパス構想』については、今後、筆者自身が取り組んでみたいテーマでもある。

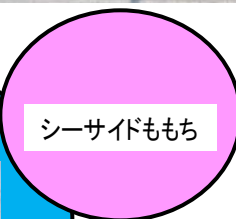
【能古島】



【シーサイドもち】



【自然、歴史】

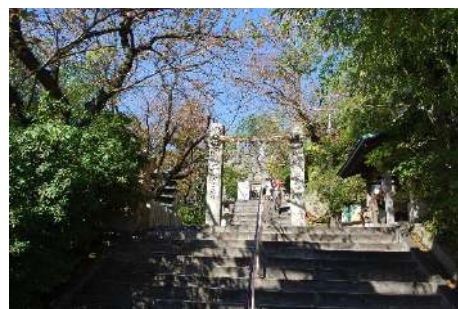


【都市景観】



【歴史】

【姪浜】



都市・歴史・自然の風景を楽しむトライアングルフットパスのイメージ

対応案⑥-3：唐津街道をテーマとした広域連携の取り組みの推進

■現状と課題

唐津街道に関するネットワークとしては、平成 20 年に発足した「唐津街道サミット」がある。この団体は、唐津街道沿線の宿場町のまちづくり団体等を中心に構成されており、毎年 1 回程度、各団体が持ち回りでまち歩きや情報交換会を行い、それぞれの地域の抱える課題や取り組み事例等について話し合いを行っている。筆者も前原宿、西新高取、姪浜宿（主催）、深江宿、箱崎宿のサミットに参加した。



筆者が参加したサミットの様子(左:前原宿、右:西新高取)



筆者らが主催した姪浜でのサミットの様子。懇親会では姪浜の食材を使った手作りの料理で参加者に変え喜ばれた。

発足した当時は、前原宿（前原名店街）や赤間宿（赤間地区コミュニティ運営協議会）の関係者が中心となって精力的に活動し、毎年 1 回の情報交換会の他に、高取商店街や西新プラリバで各地域お薦めの商品を販売したり、赤間宿のイベントで各地域のパネル展示やマップ配布を行ったこともある。また、前原宿の有志が中心となって、唐津から北九州までを歩く「歩く唐津街道の旅」を数年間にわたり実施し、唐津街道を盛り上げようと活動していた。

しかし、各団体内の諸事情もあり、当初の“唐津夢街道「宿場通り」ネットワーク協議会宣言（案）”に示されていた理念はあまり浸透せず、現在は情報交換の場にとどまっているのが実情である。平成 30 年に唐津街道サミット設立 10 年を迎えるが、当初の「唐津夢街道宣言」を再認識し、具体的な展開につなげていく必要があるのではないだろうか。



西新での姪浜ブランド商品の販売の様子(唐津街道物産展 IN 西新プラリバ)



「歩く唐津街道の旅」で姪浜に立ち寄りもらった時の様子

唐津夢街道「宿場通り」ネットワーク協議会宣言（案）

私たちが暮らす唐津街道は、江戸の昔より宿場町として栄え、明治・大正・昭和の時代になっても地域の人々が集い交流する活気あふれる元気な場所であり、経済・文化・交通などの各分野において地域の中心地でした。しかし、近年は鉄道や道路の整備が進み、大都市や郊外に人の流れが集まるようになり、かつての賑わいが失われつつあることを感じます。

われわれ唐津夢街道「宿場通り」ネットワーク協議会は、悠久の時を超え、先人が残してくれた街並み・景観・文化を活かし、守るべきものは守り、そこに暮らす人たちが豊かさを実感し、訪れる人たちが楽しさと魅力を感じられる街になるよう、兄弟のごとく助け、励ましあうために集うものであります。

由緒ある「宿場通り」に再び活気を呼び戻し、ひいては生まれ育った地域に愛着を持ち、この街を子どもたちの世代に引き継ぐことを目的に以下のとおり宣言する。

1. 私たちは、それぞれの地域において宿場通りの風情を活かした街並み再生に取り組み、再び街に活気を呼び戻し、さらなる発展を目指します。
2. 私たちは、それぞれの持つ地域資源（歴史・文化・食・祭り・農水産物など）を守りながら有効的に結びつけ、宿場通りのみならず町全体のイメージアップと活性化を図る事を目的とします。
3. 私たちは、お互いに情報交換を行い助け合い、知恵と汗を出し合い一致協力する事で、唐津夢街道全体の活性化を推進していく事を目的とします。

平成 20 年 11 月 22 日

■筆者の提案

1) 地域へのフィードバックと活動の広がり

- ・各地域の置かれている状況や抱えている課題は様々であり、サミットで得た情報や知識をそのまま活用することは難しいかもしれないが、各地域の取り組みの中にちょっとしたヒントは多くあり、サミットに参加した会員がそれを自分の所属する地域に持ち帰って、関係者と協議・実践していくことで、活動内容を広げていくことが重要である。
- ・県内には、この他にも「地域づくり」や「景観づくり」「町並み保全・活用」等に関するネットワーク組織があるが、こうしたネットワーク組織で重要なことは、参加した関係者が自分の所属する地域へきちんとフィードバックし、各地域のまちづくりの推進に役立てていくことである。

2) 具体的な実践へ

- ・筆者が唐津街道姪浜まちづくり協議会在籍中に、「唐津街道」をテーマに取り組んだことは、数回にわたる「唐津街道版画展」である。これは、宗像市在住の版画家・二川秀臣氏の協力を得て、姪浜のマイヅル味噌、福岡市赤煉瓦文化館、福岡市役所、御供所の承天寺等で展示させていただいたものであるが、「広域的視点から唐津街道の町並みを考えるきっかけづくり」を意図したものであった。また、「唐津街道」をテーマにした講演会やまち歩き、福岡市若手職員による研究発表会も実施した。



版画で歩く唐津街道展



唐津街道に関する講演会



着物で唐津街道の町並みをそぞろ歩き



福岡市若手職員による唐津街道に関する研究発表会

筆者が取り組んできた「唐津街道」をテーマにした催し

- ・各地域でこうした展示会や講演会等により地道に唐津街道を PR していくとともに、サミット全体として組織化を行い、予算を確保し、具体的な実践に移していくことが必要だと思う。そういう時期に差しかかっているのではないだろうか。

(例) 各地域で作成している歴史散策マップへの唐津街道のルート表示⇒唐津街道の PR
各地域の商店等の協力を得ての「唐津街道カレンダー」の作成

【筆者が歩いた唐津街道の各地域の町並み】

<p>宗像市赤間</p> 	<p>福津市畦町</p> 	<p>福岡市箱崎</p> 
<p>福岡市博多</p> 	<p>福岡市天神</p> 	<p>福岡市福岡城跡</p> 
<p>福岡市唐人町</p> 	<p>福岡市西新高取</p> 	<p>福岡市姪浜</p> 
<p>糸島市前原</p> 	<p>糸島市深江</p> 	<p>唐津市唐津</p> 

- ・毎年1回のサミットについても、構成団体の関係者だけでなく、広く一般市民や地域住民、商店街の方々などにも関心を持ってもらえるようオープンな催しにしていくべきであり、内容ももっと工夫していく必要がある。そうしないと、各団体の活動も活性化しないし、地域

内外への展開にもつながらない。

その参考になるのが、筆者が代表を務めている「まちなみネットワーク福岡」(平成 25 年 8 月発足)の活動である。この団体も毎年 1 回の「まちなみフォーラム(町並み見学会～講演会、パネルディスカッション、分科会～情報交流交換会)」が主な事業であるが、開催都市の住民の皆さまや行政関係者にも多く参加してもらうことで、町並みの保全・活用への理解と協力につながっている。「行政に依存しない自律的なネットワーク組織」「地域間の緩やかな連携」「行政や地域の各団体との連携」など、参考になることは多いと思う。



まちなみネットワーク福岡が実施する「まちなみフォーラム」の様子。毎回多くの市民も参加している。

- ・ 広域連携といっても、あくまでベースになるのは、各地域の個性を活かしたまちづくりの取り組みである。その上で、何を連携していくのか考えていくことが必要である。テーマとしては、「食」「祭り」「唐津街道の PR 方法」といったわかりやすいものもあるし、各地域共通の課題である「まちなみ形成」「空家対策」「地域コミュニティ」等が考えられる。唐津街道の PR とともに、各地域の抱える課題の両面から取り組んでいくことが必要だと思う。



唐津街道のルート(アクロス福岡文化誌編集委員会編「街道と宿場町」より引用)

最後に、「広域交流」について夢のある話を紹介したい。下記のコラムは、筆者が平成 25 年 8 月に秋田県横手市増田の町並みと内蔵を訪問した時の想いを書いた紀行文（抜粋）であり、北前船や五ヶ浦廻船を通じて縁があったかも知れない姪浜と増田の今後の交流について記したものである。地域づくりには現実的な課題への対応とともに、こうした夢も必要であり、その夢の実現に向けて活動していくのが「地域づくり活動」ではないかと筆者は考えている。

コラム 8 日本海を隔てた広域交流の提案

「内陸部のまち・横手市増田と海辺のまち・福岡市姪浜～日本海を隔てて 1100 km離れた地域の新たな交流の芽生え～」(2013 年 第 9 回 JTB 交流文化賞応募作品) より抜粋

増田の内蔵との出会い

平成 25 年 8 月 30 日、公務員の傍ら、福岡市姪浜で地域活動のリーダーをしている私は秋田県横手市増田にいました。仕事で出張した時の最後の視察地が増田でした。観光物産センター「蔵の駅」で説明を受け、中の蔵を見せていただきましたが、雪国ならではの独特の構法と重厚な造りに圧倒されました。視察はその蔵の見学と 10 分程度の町並み散策だけでしたが、もう少し居残って見てみたいと思い、視察のバスが他のメンバーを乗せ秋田駅に向かう中、私は帰りの飛行機の時間が許す限り、他の蔵を見ることにしました。

(中略)

福岡市・姪浜の蔵と町並み

一方、私が暮らし、まちづくり活動を実践している福岡市の姪浜にも、時代時代の状況に応じて様々な使い方をされてきた蔵があります。築 180 年以上になる江戸時代後期の建物で、戦前までは酒蔵、戦時中は飛行機の部品工場、戦後は味噌の製造・販売、現在はパンの製造・販売及びまちの案内所（地域のまちづくり活動の拠点）として使われ、今でもオーナーが住み続けておられます。また、時にはコンサートや講演会、展示会等のイベント会場になるなど、地域のシンボリック空間となっています。増田の内蔵とは造られた背景、歴史、構造はかなり異なりますが、「蔵」の持つ不思議な縁を感じました。



増田の蔵



姪浜の蔵

(次ページに続く)

(中略)

北前船で関係する増田と姪浜

ある蔵で説明を受けている中で、増田は北前船とも関わりがあることを知りました。なぜ、内陸部の増田が北前船と関係あるのか、詳しく話を聞いてみました。

昔、北前船が秋田の港に寄港し様々な物資を降ろしました。増田は雄物川支流の成瀬川と皆瀬川の合流に位置し、秋田の港に着いた物資は、これらの川を使って増田にも運ばれたそうです。当時は食品保存が未熟なため、新鮮な魚は横手のような内陸部には流通が困難でした。しかも秋田は冬が長いため、食品を加工し保存食として冬を越しました。そこで当時の人々は保存食をより美味しく、来客にもてなしたいという思いから、昆布に代表される保存食の加工技術に磨きがかかったということです。

姪浜も江戸時代には廻船業で栄え、五ヶ浦廻船や北前船とも関わりがあります。製塩業や漁業で栄え、藩米を廻送する千石船で賑わったほか、全盛期には江戸、大阪はもちろん東北、北海道にまで船足を伸ばし、江戸幕府や他藩の米、民間の材木、海産物の物流をも担いました。海辺のまち・姪浜と内陸部のまち・増田は 1100 km も離れており、一見関わりがないように見えますが、「姪浜の塩や海産物が増田で消費されていたかもしれない」「増田の昆布を姪浜の人にも食べていたかもしれない」など、何らかの交流があったことを想像すると、とてもわくわくしてきます。



江戸時代の交通路(安藤達朗著「いっきに学び直す日本史」に筆者が姪浜と増田の位置を記載)

● 姪浜 ● 増田

今後の交流に向けて（増田の皆さんへのメッセージ）

急遽決断した4時間足らずの増田滞在でしたが、とても有意義な時間でした。「蔵」や「北前船」が取り持つ縁、これは決して偶然ではないと思います。私を増田に引き寄せたもの、それは「増田にはこれからの日本の社会、そして姪浜の地域づくりを考えるヒントがたくさんある」ということを私に伝えたかったのではないのでしょうか。こうした縁を大切に、日本海を隔てて遠く 1100 km も離れた増田と姪浜で「地域づくり」や「町並み」「観光」をテーマに新たな交流が生まれればよいと感じています。

最後になりますが、丁寧に説明していただいた増田の皆さん、本当にありがとうございました。福岡市の姪浜から厚くお礼申し上げます。これを機会に「日本海を隔てた広域交流」を始めましょう。

【提言に代えて（筆者からのメッセージ）】

筆者は、公務員（福岡市職員）でもあり、建築士でもある。これまでの業務やボランティア活動で得た知識と経験を活かし、業務の枠を超えて地域づくりや景観づくりに取り組んできた。皆さま方の参考になるかどうかかわからないが、公務員や建築士の地域のまちづくりへの関わり方等について、これまでの執筆文をメッセージとしたい。

（１）公務員の皆さま方へ ～自治体職員よ、地域に出よう！スキルを活かそう！～

これは、月刊「地方自治職員研修」（2015年1月号）の「進行形！景観まちづくり」というコーナーでの筆者の執筆文である（平成28年度作成「活動記録」参考資料の再掲）。

進行形！景観まちづくり ～歴史的資源を活かした町並みづくりと賑わいづくり～

姪浜と私

平成17年3月の福岡県西方沖地震、それが私の人生の大きな転機となりました。私の住む姪浜でも多くの町家や寺社が被害を受けました。被害を受けて改めて気付くというのは残念ですが、しかし、「姪浜にはこんなに素晴らしい歴史的資源が残っていたのか。まだ遅くはない。歴史的な環境を活かしたまちづくりを進める上で、これが最初で最後のチャンスだ。」と前向きに考え、地域の関係者に声をかけ、2年後にまちづくり協議会を立ち上げました。私が49歳の時です。

それまで福岡市職員として長く景観行政に携わっていながら、自分が住む地域のことにはあまり関心がありませんでした。それからは今までの20年間を取り戻すかのように『姪浜の宝を福岡市民の宝に！』を目標に精力的に活動を続け、地域から感謝状もいただきました。

30歳代後半までは、職場でも「セブンイレブン（朝7時から夜11時まで）」と言われるぐらいに働きましたが、今後は、はやりの二刀流ではありませんが、地域への恩返しを込めて、「人生は二刀流、二毛作」をテーマに息長く、そして仲間とともに楽しく地域活動に関わっていきたいと思います。

本稿で紹介するのは、福岡市職員でもある私が景観行政の知識と経験を活かし、業務の枠を超えて地域の景観づくりに取り組んでいる事例です。まちづくり事例としてだけでなく、読者の皆さま方の今後の役所生活の参考にもなれば幸いです。

宝のまち・姪浜～姪浜の歴史と魅力～

姪浜は、人口150万人都市・福岡市の西区の中心的地域です。地下鉄の終点駅なので、名前を聞かれたことがあるかもしれません。ややもすると通り過ぎてしまいそうな姪浜の町並みですが、じっくりと歩いてみると、町並みのそこそこにたくさんの「よかところ」を発見することができます。その中には私たちの先人たちから受け継いできたものもあり、また、その上に新たに加えられたもの、生み出されたものもあります。

先人たちから受け継いできたものの代表は、日本誕生の神話や神功皇后伝説、奈良時代や鎌倉時代からの歴史を持つ神社やお寺の数々、元寇防塁、小戸から生の松原にかけての白砂青松、江戸時代に栄えた唐津街道の町並み、港の風景などたくさんあります。一方、姪浜駅周辺や海沿い

の現代的な商業施設や高層マンションなどは、姪浜の環境の良さや便利さが生み出した新たな風景です。

このように姪浜は新しいものと古いものが共存するまちですが、区画整理によって新しく生まれ変わった姪浜駅周辺と、海辺のマリノアシティの間であって、ぽつんと取り残されたように歴史的な環境が残っている地域があります。ここが私たちの主な活動地域で、宿場町、商人町、漁師町、寺町の4つの顔を備えた全国的にも珍しいまちです。その中央を東西に走る唐津街道を中心に、数多くの寺社や古い町家、路地などが残り、今でも街道の名残を感じさせる町並みが継承されています（写真1）。



写真1 街道の名残を感じさせる姪浜の町並み

活動のきっかけとねらい、協議会の体制

姪浜では、平成17年の福岡県西方沖地震の影響や都市化の進展等による町家の減少、マンションや駐車場の増加等により、地域固有の歴史的景観が次第に失われつつあります。このような状況の中で、歴史的な環境を活かしたまちづくりを進める上で今が正念場であると考え、危機感を持って立ち上がった私を含む福岡市職員が中心となって、平成19年3月に「唐津街道姪浜まちづくり協議会」を立ち上げました。

当初は地域外のメンバーを中心に十数名のメンバーでスタートしましたが、今では協力会員を含め46名がメンバーとなっており、建築士、コンサルタント、地方史研究者、写真家、大学生、地域住民等の多様な構成が特徴です。年齢的には40～60歳代の男性が中心ですが、なかには、仕事や家庭の都合で一度姪浜を離れた人や定年後に姪浜に戻ってきた人が、われわれの活動に刺激を受けて活動に関わりだした例もあります。こうしたメンバーが「ばか者、よそ者、若者」の視点を大切にして、『姪浜の宝を福岡市民の宝に！』を目標に、姪浜ならではの多彩な魅力資源を活かした地域協働のまちづくりを精力的に推進しています。

ちなみに、立ち上げ当初の中心メンバーであった市役所職員のうち、現在まで続いているのは私だけです（途中から参加しているメンバーには市役所職員が2名います）。歴史や町並みに興味があるだけでは目標を持ち続けるのが難しく、また、何かメリットを感じられないと地域活動は

続かないのかな、と思っています。

唐津街道姪浜まちづくり協議会の活動内容

協議会は平成 19 年の立ち上げ以降、以下のようにステップアップしながら活動を展開しています。

◆ 1st ステージ（主に平成 19 年度～）

『地域の魅力の再認識と地域内外への発信』を目標に、「まち歩きマップや瓦版の発行」「まちづくり活動拠点の設置」等による姪浜の見どころ・活動の情報提供や、「景観歴史発掘ガイドツアー」「国の登録有形文化財でのみそ蔵コンサート」「歴史ある寺社での灯明コンサート」等の多彩な町並みイベントを実施しています。

◆ 2nd ステージ（主に平成 22 年度～）

『地域協働のまちづくり計画の策定』を目標に、住民参加のワークショップも取り入れながら「元気！姪浜計画や景観づくり計画の策定」を行っています。また、『景観まちづくりの実践と姪浜ブランドの構築』を目標に、「町家再生の実践」「旧町名表示板の設置」「姪浜ブランドや姪浜町家の認定」等の具体的な活動を展開し、目に見える形でまちづくりの効果を伝えています。

最近では、「子どもまちなみ探検隊」「子ども落書き消し隊（写真 2）」等の次の世代を担う子どもたちを対象にした景観教育にも取り組んでいます。

◆ 3rd ステージ（平成 26 年度～）

『国の登録文化財のみそ蔵を中心とした姪浜のまちなみの個性の再構築』を目標に、「景観づくりの手引き」を発行し地域への普及活動を行うとともに、平成 25 年末に味噌の製造場としての約 1 世紀の役割を終えて閉店した旧マイヅル味噌のみそ蔵（姪浜の歴史的・景観的シンボル）の再生・継続的活用に向けた活動を展開中です。



写真2 次代の子どもたちを育てる景観教育

取り組みのポイント～人を活かす、資源を活かす～

このようにまちづくりの各段階に対応した多彩な活動を、協議会に参加している地域内外の

人々の多様なノウハウ・スキルをフルに活用しながら、また関係団体、九州大学、行政、NPO等と協働で進めています。私も、福岡市職員として培った専門性と企画力、人的ネットワーク等を存分に活用し、会の事務局長として力を発揮しています。特に公務員が長じるスキルである「各段階の課題に対応して段階的・長期的視点で取り組むこと」「職業・性格・意見の異なる十人十色の会員をまとめること」はまちづくりの現場で活かされています。

また、全国どこに行っても同じような町並みの形成が進む中で、「何これ！」と思うような地域に埋もれている身近な魅力資源を掘り起こすことが、姪浜ならではのまちづくり・景観づくりにつながると考えており、景観行政の経験を存分に発揮できる場面でもあります。

地域内外からの反応・反響

こうした活動による地域住民の反応ですが、「地域への誇りや愛着の創出」「活動の広がり」「地域の歴史・文化・暮らしを踏まえた、まちづくりや景観づくりの方向性の共有」「地域資源の保全・活用に向けた意識醸成」「双方向のまちづくりへの展開」につながっています。それを裏付けるものとして、例えば、地域住民から姪浜の魅力を「相撲甚句」や「史跡巡りの歌」にさせていただいたり、また、古民家の再生事例や自主的に景観形成に配慮した建築物等の事例が着実に増えています（写真3）。

一方、対外的な反響ですが、全国的な賞をいくつも受賞することで、「姪浜の魅力の全国へのPR」にもつながっており、視察や研修のフィールドとして姪浜を選んでいただくことも多くなりました。今後は、「身近な魅力資源を活かしたまちづくりの他地域への波及効果」も大いに期待できると考えています。



写真3 自主的に景観に配慮した建築物も

自治体職員よ、地域に出よう！スキルを活かそう！

私はこの活動に業務として関わっているわけではありませんが、地域の皆さま方に喜んでいただき、地域から感謝状までいただけるのはこの上なく公務員冥利に尽きます。

私のような一職員が地域に飛び出すだけでも地域は大きく変わります。読者の皆さま方も仕事

や家庭の事情もあると思いますが、それぞれの経験を活かして地域づくりに関わることで地域力は大きく向上しますし、それを自分自身にフィードバックすることで公務員生活や定年後の生活にも役立つと確信しています。

今後の展望

姪浜では、まちづくりの進展の一方で、いろいろな課題も出てきていますが、課題に取り組むことがまちづくりの楽しさでもあります。

今後も『姪浜の宝を福岡市民の宝に！』を目標に、地元の人にとっては「住みやすさ・暮らしやすさ」のあるまち、訪れる人にとっては「楽しさ」のあるまちの実現を目標として、新旧の多彩な「よかところ」を姪浜の個性として活かすことができるような「まちづくり・町並み景観づくり」を地域、九州大学、福岡市等と協働で進めていきます。そして、子どもたちに誇りをもって手渡すことのできる景観づくりにつなげていきたいと考えています。

今後の活動予定

- ① 景観形成のルール化（景観条例に基づく景観協定の締結等）
- ② 歴史的な環境を活かした景観づくりの実践（町家再生事業等）
- ③ 地域づくり資源（姪浜の歴史や景観的魅力）の物語化
- ④ こだわりとおもてなしの町並みイベントの継続・充実
- ⑤ 商店街や地域コミュニティ活性化に向けた活動（空き家活用事業等）
- ⑥ 身の丈に合った観光スタイルの定着（多彩な魅力資源の活用、地域の暮らしや人との出会い）

（月刊「地方自治職員研修」2015年1月号）

(2) 建築士の皆さま方へ ～建築士よ、地域に出よう！スキルを活かそう！～

これは、(公社)日本建築士会連合会の会誌「建築士」(2015年3月号)の「建築士会まちづくり賞受賞」のコーナーでの筆者の執筆文である(平成28年度作成「活動記録」参考資料の再掲)。

地域の誇り&まちなみ育てプロジェクト ～姪浜の宝を福岡市民の宝に！～

宝のまち・姪浜～姪浜の歴史と魅力～

姪浜は、福岡市西区の中心的な地域です。地下鉄の終点駅なので、名前を聞かれたことがあるかもしれません。ややもすると通り過ぎてしまいそうな姪浜の町並みですが、じっくりと歩いてみると、町並みのそこそこに新旧の多彩な「よかところ」を発見することができます。

先人たちから受け継いできたものの代表は、日本誕生の神話や神功皇后伝説、奈良時代や鎌倉時代からの歴史を持つ神社やお寺の数々、元寇防塁、小戸から生の松原にかけての白砂青松、江戸時代に栄えた唐津街道の町並み、港の風景などたくさんあります。一方、姪浜駅周辺や海沿いの現代的な商業施設や高層マンションなどは、姪浜の環境のよさや便利さが生みだした新たな風景です。

このように姪浜は新しいものと古いものが共存するまちですが、その魅力が地域住民にほとんど認識されていませんでした。また、平成17(2005)年の福岡県西方沖地震の影響や都市化の進展による町家の減少、マンションや駐車場の増加などにより、地域固有の歴史的景観が失われつつあります。

このような状況の中で、歴史的な環境を活かしたまちづくりを進める上で今が正念場であると考え、危機感を持って立ち上がったよそ者の建築士が中心となって、平成19年3月に「唐津街道姪浜まちづくり協議会」を立ち上げました。当初は10名程度のメンバーでスタートしましたが、今では協会員を含め46名のメンバーで「ばか者、よそ者、若者」の視点を大切にして、『姪浜の宝を福岡市民の宝に！』を目標に、姪浜ならではの多彩な魅力資源を活かした地域協働のまちづくりを精力的に推進しています。

継続的で多彩な活動内容

協議会は平成19年の立ち上げ以降、ステップアップしながら活動を展開しています。

◆1st ステージ(主に平成19年度～)

「地域の魅力の再認識と地域内外への発信」を目標に、まち歩きマップや瓦版の発行、まちづくり活動拠点の設置等による姪浜の見どころ・活動の情報提供や、景観歴史発掘ガイドツアー、国の登録有形文化財でのみそ蔵コンサート、歴史ある寺社での灯明コンサートなどの多彩な町並みイベントを実施しています(写真1)。

◆2nd ステージ(主に平成22年度～)

「地域協働のまちづくり計画の策定」を目標に、住民参加のワークショップも取り入れながら「元気！姪浜計画や景観づくり計画の策定」を行っています。また、「景観まちづくりの実践と姪浜ブランドの構築」を目標に、町家再生の実践、旧町名表示板の設置、姪浜ブランドや姪浜町家の認定(写真2)などの活動を展開し、目に見える形でまちづくりの効果を伝えています。

最近では、子どもまちなみ探検隊、子ども落書き消し隊など次の世代を担う子どもたちを対象にした景観教育にも取り組んでいます（写真3）。



写真1 みそ蔵コンサート



写真2 姪浜町家の認定



写真3 子ども落書き消し隊

◆ 3rd ステージ（平成 26 年度～）

「国の登録文化財のみそ蔵を中心とした姪浜のまちなみの個性の再構築」を目標に、「景観づくりの手引き」を発行し地域への普及活動を行うとともに（写真4）、平成 25 年末に味噌の製造場としての約 1 世紀の役割を終えて閉店した旧マイヅル味噌のみそ蔵（姪浜の歴史的・景観的シンボル）の再生・継続的活用に向けた活動を展開中です（写真5）。

このように、まちづくりの各段階に応じた多彩な活動を牽引しているのが、私をはじめとした数名の建築士です。全国どこに行っても同じような町並みの形成が進む中で、地域に埋もれている身近な魅力資源を掘り起こすことが、姪浜ならではのまちづくり・景観づくりにつながると考

えており、建築士としての専門性を存分に発揮できる場面です。「それぞれの地域の歴史や空間特性をしっかりと把握し、ここでしかできないことを形にしていく」、このこだわりが建築に携わる者としての原点であり、私たち建築士の使命だと思います。



写真4 景観づくりの手引き発行



写真5 登録文化財みそ蔵特別公開

地域内外からの反応・反響

こうした活動による地域住民の反応ですが、たとえば、姪浜の魅力や相撲甚句や史跡巡りの歌にしていただいたり、また、古民家の再生や自主的に景観形成に配慮した建築物の事例が着実に増えています（写真6）。これは、地域への誇りや愛着の創出、地域の歴史・文化・暮らしを踏まえたまちづくりや景観づくりの方向性の共有、地域資源の保全・活用に向けた意識醸成、双方のまちづくりへの展開につながっている証だと考えています。



写真6 自主的に景観に配慮した町家

一方、対外的な反響ですが、全国的な賞をいくつも受賞することで、姪浜の魅力の全国へのPR

にもつながっており、視察や研修のフィールドとして姪浜を選んでいただくことも多くなりました。今後は、身近な魅力資源を活かしたまちづくりの他地域への波及効果も大いに期待できると考えています。

私はこの活動に建築士や福岡市職員の業務として関わっているわけではありませんが、地域の皆さま方に喜んでいただき、地域から感謝状までいただけるのはこの上なく建築士や公務員冥利に尽きます。

私のような一建築士や一公務員が地域に飛び出すだけでも地域は大きく変わります。建築士として様々な形で建築に向き合っている読者の皆さま方も、それぞれの経験を活かして地域づくりに関わることで地域力は大きく向上し、それを自分自身にフィードバックすることで今後の業務や定年後の生活にも役立つと確信しています。

今後の展望

姪浜では、まちづくりの進展の一方で、いろいろな課題も出てきていますが、課題に取り組むことがまちづくりの楽しさでもあります。

今後も『姪浜の宝を福岡市民の宝に！』を目標に、地元の人にとっては「住みやすさ・暮らしやすさ」のあるまち、訪れる人にとっては「楽しさ」のあるまちの実現を目標として、新旧の多彩な「よかところ」を姪浜の個性として活かすことができるような「まちづくり・町並み景観づくり」を地域、九州大学、福岡市等と協働で進めていきます。そして、子どもたちに誇りをもって手渡すことのできる景観づくりにつなげていきたいと考えています。

姪浜流まちづくりに向けて

- ① 景観形成のルール化（景観条例に基づく景観協定の締結等）
- ② 歴史的な環境を活かした景観づくりの実践（町家再生事業等）
- ③ 地域づくり資源（姪浜の歴史や景観的魅力）の物語化
- ④ こだわりとおもてなしの町並みイベントの継続・充実
- ⑤ 商店街や地域コミュニティ活性化に向けた活動（空き家活用事業等）
- ⑥ 身の丈に合った観光スタイルの定着（多彩な魅力資源の活用、地域の暮らしや人との出会い）

((公社)日本建築士会連合会 会誌「建築士」2015年3月号。

同会主催 第8回まちづくり賞「まちづくり優秀賞」受賞)

(3) 地域づくりに携わる皆さま方へ ～小さなまち旅の薦め～

これは、第13回JTB交流文化賞(2017年)に応募した筆者の執筆文である(内容一部修正)。熊本地震で大きな被害を受けた熊本城の訪問を機会に、二毛作目の人生に向けて始めた筆者の二つの小さなまち旅をエッセイにしたものである(※手記(1)、(2)と一部重複)。

二毛作目の人生の始まりは、被災後の熊本城訪問から

二つの激震と私の決断

私は、福岡市西区姪浜で活動しているまちづくり協議会の初代事務局長の役を担った(平成19年3月～28年5月)。平成19年3月に自ら協議会を立ち上げて以来、『姪浜の宝を福岡市民の宝に!』を目標に、地域固有の歴史・文化資源を活かしたまちづくりを牽引してきた。姪浜への熱い想いを込めた10年間の活動は、全国レベルのまちづくり賞を多数受賞するなど姪浜の魅力や協議会の活動を全国に発信することができた。

私は、今後も「姪浜のまちづくりの次のステージ」に向けて、地域の関係団体を巻き込みながら、さらに活動をステップアップさせていく予定であった。しかし、平成28年4月、まちづくりの進め方や協議会の運営方針などに対する他の会員との考え方の違いが表面化し、私は10年という節目を機会に断腸の想いで協議会卒業を決断した。地域のために精力的にまちづくり活動を推進してきた私にとっては、予期せぬ激震であり、大きな決断であった。



まちづくり協議会での私の活動のひとつ

また、協議会卒業を決断しかけた4月中旬、熊本で震度7の大地震が発生し、甚大な被害をもたらした。信じられない光景がテレビに映し出された。私は建築物の耐震関係の仕事をしている

こともあり、また、建築を学ぶため学生時代を熊本で過ごしたこともあり、今回の熊本地震はとも考えさせられるものがあった。

ちょうど熊本地震前の3月中旬～4月上旬にかけて2回、熊本や阿蘇に出かけ、熊本城や阿蘇神社、阿蘇大橋、南阿蘇村などを見てきたばかりだった。訪問した先々の場所が大きな被害を受け、様変わりしてしまった。それはまさに『建築物の耐震化は重要な仕事である。大学時代の恩返しをしよう。地域づくりの原点に戻ろう。』と私に伝えているようだった。姪浜という狭いフィールド、協議会という小さな組織を離れ、もっと大きな視点で世界を見てみようというメッセージだったのだろう。そして、私は5月下旬の定期総会で協議会卒業の意志を伝え、思い出の多い事務所を後にした。



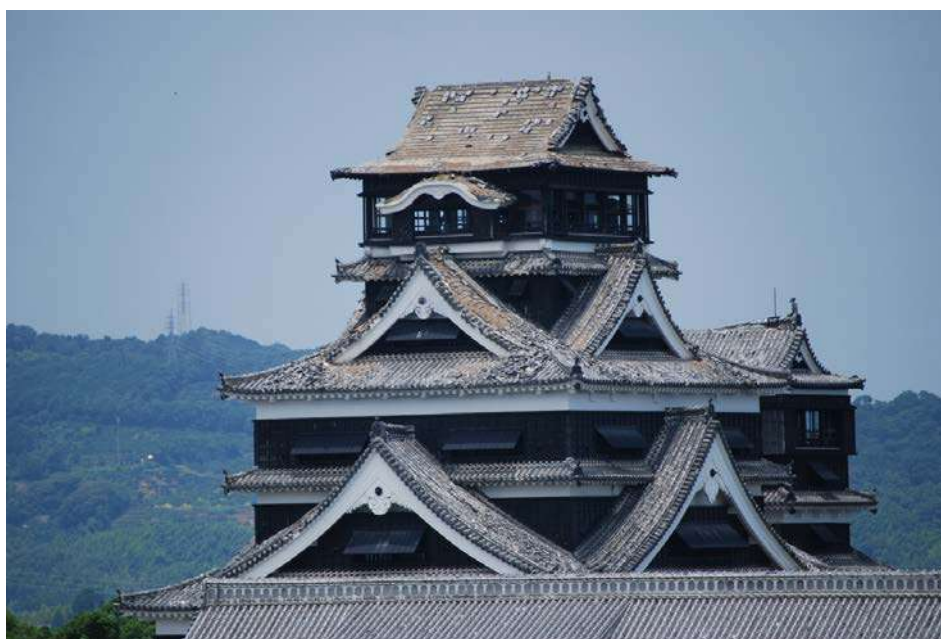
阿蘇大橋の崩落現場

被災後の熊本城訪問～失意のどん底からの立ち直り～

協議会卒業後、まちづくり活動というライフワークを失った私は、失意のどん底にあり途方に暮れていたが、平成28年6月中旬、気になっていた被災後の熊本城を訪れた。傷ついた熊本城の姿に自分の姿を重ね合わせていたのかもしれない。熊本地震以降、熊本城の被害状況はテレビや新聞で大きく報道されていたが、実際に見るとその被害の大きさに言葉を失った。石垣は大きく崩れ、天守閣は鯪を含め多くの瓦が落下するなど、無残な姿をさらけ出していた。

しかし、甚大な被害を受けながらも勇壮に佇んでいる姿はまさしく熊本のシンボルであり、私はとても勇気づけられた。飯田丸五階櫓や戌亥櫓は周囲の石垣が崩壊し、コーナーの石垣一本で辛うじて櫓を支えているだけであるが、この懸命な姿にも感動した。また、傷ついても勇壮に佇む熊本城を誇りに思い、来訪者に熊本城の魅力や地震後の状況を丁寧に説明しているボランティアガイドの皆さまの熱心な姿にも感銘を受けた。熊本城はこれまでも戦、地震、火災にも負けずに何度も復活してきた歴史があり、彼らは今回の大地震やそれによる甚大な被害も、今までの400年そしてこれからも長く続くであろう歴史のひとつとして大変前向きに考えているのだなと実感した。そう考えれば、私の姪浜での10年も長い人生のひとつまでであり、これからの二毛作

目の人生もより充実したものにできるのではないかと、私も前向きに考えることにした。



熊本地震で大きな被害を受けた熊本城。天守閣(上)と飯田丸五階櫓(下)

地域づくりや建築の原点に戻る旅

被災後の熊本城訪問で勇気とエネルギーをもらった私は、少し息を吹き返した。まず、始めたことは「地域づくりや建築の原点に戻る旅」である。これは、姪浜での10年間のまちづくり活動を振り返る旅であり、次の二毛作目の人生に向かって自分を見つめ直す旅でもある。初めての場所もあるし、思い出の場所もある。大学の卒業研究で関わった場所もあるし、建築を志した時に訪れた場所もある。テーマは地域づくりや建築の勉強でもいいし、人との出会いでもいい。何か感じ取ることができれば、それで十分なのである。そして、私が地域づくりや建築の原点に戻る

旅のスタートとして選んだのは、大学の卒業研究のフィールドであった「三角西港」と、建築を志した時に感銘を受けた「孤風院」という洋風建築である。

三角西港は、明治政府の殖産興業の政策に基づき、お雇い外国人のオランダ人水理工師ムルドルによる設計で明治 20 年（1887 年）に完成した。当時の最新の技術が盛り込まれた三角西港は、近代国家の威信を懸けた明治三大築港の一つであり、三角町は熊本県の海の玄関港として、また、人や物資が行き交う海上交通の要地として繁栄した。その後、港としての機能は三角港（東港）に移ったこともあり、756 メートルにも及ぶ石積みの埠頭や水路、橋などは築港後 130 年の歴史を持ちながら、当時の佇まいを見せている。



現在の三角西港

私は、大学を卒業して 36 年後の平成 28 年 7 月上旬に久しぶりに三角西港を訪問した。石積みの埠頭や水路は当時とほとんど変わらないが、昭和 62 年の築港 100 周年を機に、当時の建築物の復元や周辺の公園整備も行われ、観光地としても賑わいを見せていた。復元された小説家・小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）ゆかりの旅館・浦島屋、倉庫を改修したカフェなど明治の面影を残す建築物が印象的であった。大学時代にはだれ一人として観光に訪れる者はいなかったが、突然の雷雨にも関わらず多くの観光客が訪れていた。当時をよく知る私にとっては、想像もできないことであった。

大学時代に私が始めた研究が一つのきっかけとなり、重要文化財の指定や世界文化遺産の登録が行われ、多くの観光客が訪れる港町になったことを本当に嬉しく思う。そして、三角西港の魅力をここまで高めていただいたすべての関係者の皆さまに感謝の気持ちでいっぱいである。エピソードになるが、長年使っている腕時計の針が三角西港を訪れた時に突然止まった。まるで大学時代にタイムスリップしたかのように。それは、私に「地域づくりの原点に戻ろう」と示唆しているかのようだった。



現在の三角西港

次は孤風院である。孤風院は、明治41年（1908年）、熊本高等工業学校の講堂として建てられた熊本を代表する洋風木造建築であった。しかし、昭和51年（1976年）、老朽化による解体決定に伴い、当時熊本大学助教授であった木島安史先生が買い取り、現在の地（阿蘇）へ移築し、住居として平成3年（1991年）まで利用されていた。移築後は住みながら改修を続けられ、平成4年に木島先生が亡くなられてからは木島家の別荘としてのほか、「孤風院の会」によってメンテナンスを含めた建築教育活動の場として利用されている。大学の講堂としての役割を終えた建築物を自ら買い取り、改修し、住居として蘇らせ、明治～大正～昭和～平成の4つの時代にわたり活用されていった。

こうした建築への想いと行動力のある木島先生に大学時代に少しでも教わったことを今でも大変誇りに思っている。私は熊本地震から4ヶ月後の8月中旬に孤風院を訪問したが、外から見る限りは大きな損傷はなかったようだ。一安心である。木島先生の想いを受け継いだ建築物を訪問することで、建築への想いを新たにした。同行した長男は建築を学ぶ大学生であるが、私は木島先生の建築に込める想いを長男に伝えたかったのである。私にとっては、これこそ「建築の原点に戻る旅」であり、「親から子へメッセージを伝える旅」でもある。

私は、三角西港や孤風院訪問をきっかけとして、それぞれの風土や身近な歴史・文化を活かしたまちづくりを進めている地域や集落、各地に残る歴史的建造物などを訪問している。それぞれの地域の取り組みを学び、地域の方々と出会い、対話することで、地域づくりや建築への想いを新たにしている。



現在の孤風院

熊本の復興の過程を巡る旅

また、私は熊本地震後、大学時代の思い出の多い熊本のことが気になり、積極的に熊本県内を訪問している。被害を受けている熊本の状況をしっかり目に焼き付けておきたいからである。その中でも、熊本城、阿蘇神社、阿蘇大橋、そして益城町や南阿蘇村の被害はとても痛ましいものがあつた。主要な観光地を結ぶ道路も閉鎖され、観光客も激減している。地震前とは違う光景が広がっていた。

折しも平成28年8月上旬、熊本地震前に制作された映画「うつくしいひと」の上映会が福岡市内であった。熊本城、夏目漱石旧居、江津湖、菊池溪谷、草千里、通潤橋といった熊本の名所の地震前の姿が映し出された。私は、こうした名所がまた元の姿に戻るよう願わずにはいられなかった。と同時に、これから長い時間をかけて進められていく復興の過程を見に定期的に熊本を訪問することとした。熊本城の復興には20年かかると言われている。私は現在59歳であり、熊本城が復興される頃には80歳近くになっているが、復興の過程を見に何度も訪問したいと考え、実践を続けている。

熊本地震から1年経った平成29年4月上旬には満開の桜を見に訪れたが、石垣と桜の美しさは熊本だけでなく、日本の誇りだと改めて感じた。多くの市民や観光客も訪れ、賑わいを見せており、復興の足音を強く感じた。また、5月下旬の訪問時には、天守閣再建に向けて一部解体工事が始められていた。城内にある加藤神社では、復興工事の様子をバックに結婚式の記念写真の撮影が行われていた。新郎新婦も熊本城の復興とともに今後の人生を歩んでいくのだろう。「いつまでもお幸せに」と祈りつつ、私も思わず記念写真撮影のシャッターを切っていた。



熊本地震から1年後の桜が満開の頃の熊本城



天守閣再建に向けて一部解体工事が始められた頃の熊本城

また、南阿蘇村の一心行の桜も地震前と同じように咲き誇り、黄色の菜の花や青い空とのコントラストが鮮やかであり、多くの来訪者で賑わっていた。落ちない石で有名な免の石は熊本地震で残念ながら落ちたが、地元の方々がそれを逆手に取り、石が落ちた後の空洞の姿を招き猫に例えPRしていた。私は、逆転の発想に思わず猫のように「ニャッ（ニャー）」としてしまった。「ピンチをチャンスに」という前向き思考の考え方に私は勇気づけられた。倒壊した阿蘇神社も復興に向けて新たな歩みを始めていた。毎年のように訪問している南阿蘇村のペンションも地震後は一時休館していたが、3ヶ月後に再開。オーナー夫婦とも再会し、喜びを分かち合うことができた。

このように熊本の復興の過程を巡る旅は、私にとっては人との出会いの旅であり、感動の旅である。私は、今後も復興の過程を見に定期的に熊本を訪問し、地域の方々と対話・交流することを楽しみにしていきたい。それが私流の熊本復興への支援である。



熊本地震から1年後の一心行の桜



毎年訪れる南阿蘇村のペンション。熊本地震から3ヶ月後に再開

今後の二毛作目の人生に向けて

この10年間は姪浜でのまちづくり活動にどっぷりと浸っていた私であるが、「地域づくりや建築の原点に戻る旅」や「熊本の復興の過程を巡る旅」を通して、多くの人と出会い、いろいろな

ことを感じ、学んでいる。まちづくりに関わる人間は、外の風や空気に触れ、いろいろな地域の方々と対話・交流することが必要だと改めて痛感している。

被災後の熊本城訪問をきっかけに始めた二つの旅は、今までの姪浜でのまちづくり活動を振り返るとともに、今後何らかの形で地域活動や定年後の生活に役立てていきたいという趣旨もある。私がまちづくり協議会を卒業する時に、ある知人が「市役所でのいろいろな経験、そして10年にわたる姪浜での地域づくりの経験を活かして、姪浜という狭いフィールドではなく、もっと広いフィールドで活躍してほしい」ということを話してくれた。実践を始めた二つの旅を通して、熊本城の復興と重ね合わせた今後の二毛作目の人生を大いに楽しみたいと考えている。

(平成29年9月応募の「第13回JTB交流文化賞応募作品」を一部修正)

【追記】



平成29年12月末現在の熊本城(熊本地震から1年8ヶ月後)

筆者の執筆は、唐津街道姪浜まちづくり協議会卒業直後の熊本城訪問(平成28年6月)から始まった。今後も熊本城の復興の歩みと自分自身を重ね合わせながら、次のステージに向けて活動を進めていきたい。

おわりに

今回の研究の終盤となる平成 29 年 11 月 23 日に広川町のイチョウ並木を訪れた。ここは、農業を営む丸山元運（もとゆき）さんが 20 年前に奥様が亡くなられた後に、長年ブドウ栽培で使っていた畑の一部をイチョウに植え替えた場所である。植えた当初は高さ 30～40 cm だった苗木も今では 7～8 m まで成長し、約 80 本の並木として、今では多くの人々が訪れる「紅葉の名所」となっている。奥様が亡くなられる直前まで 2 人で紅葉狩りに行くのを楽しみにしていたとのこと、丸山さんと亡き奥様の想いが込められている。

また、平成 29 年 8 月 14 日と 12 月 25 日に NHK の「にっぽん紀行」で放送された番組を見てぜひお会いしたいと思っていた熊本市上及裏通りの「トタン屋根のケーキ屋 ア・ラモート」の店主・新本高志さんに 12 月 28 日にお会いすることができた。新本さんは 30 年以上自転車のペダルをこいで、丹精込めて作られたパウンドケーキだけでなく、地域の方々に元気をお届けしている。熊本市内だけでなく、益城町や阿蘇、八代、天草、そして福岡県内にも配達することもあるそうだ。夢の実現に向けて頑張っている姿や、人と人との出会いやつながり、笑顔を大切にされている新本さんから、筆者も次のステージに向けて元気とエネルギーをもらったような気がする。

丸山さんや新本さんのような一つひとつのストーリーの積み重ねや人と人とのつながりが、地域づくりにつながっていくのだと確信した。今回の研究の締めくくりとなる「地域づくりを巡る小さなまち旅」は、感動の旅となった。



広川町のイチョウ並木



トタン屋根のケーキ屋 ア・ラモート(熊本市)

さて、今回の研究は、平成 28 年度に作成した「身近な地域資源を活かしたまちづくり活動記録～姪浜での 10 年の実践活動を中心とした、建築と地域づくりへの想い～」をブラッシュアップするとともに、今まで訪問してきた地域の中から特に印象に残る取り組みを振り返り、「身近な地域資源を活かしたまちづくりの実践方策に関する研究」として執筆を進めてきたものである。

筆者のまちづくりの哲学は、これまで何回も述べてきたとおり「それぞれの地域の風土・歴史・文化の尊重であり、それらを活かしたまちづくりの推進」である。例えば、重要伝統的建造物群保存地区等の歴史的町並みを有する地域や、豊かな自然や緑を有する地域、賑わいや風格を有する都市の中心部等は、地域の個性が明確であり、それを活かした街並みの形成が進められている。しかし、国内の大半の地域は、都市化に埋没し、全国同じような街並みが形成され、地域の個性

や特徴が見えにくくなっているのが実情である。

そうした地域において、地域の方々に地域への誇りや愛着を感じていただくためには、地域の隠れた魅力資源を掘り起こし、まちづくりに活かしていく視点が重要となる。各時代の歴史が上書きされ続けてきた姪浜は、その代表的な例であり、筆者らの取り組みはいろいろな地域への応用が可能であり、身近なまちづくりの推進に大いに参考になるものと考えている。

また、まちづくり協議会のあり方やまちづくりの進め方には様々な考え方があり、これが正解だと言い切れるものはない。ただ、筆者が唐津街道まちづくり協議会の事務局長として重要だと感じていた「ヒト」「モノ」「ストーリー」「巻き込み力」等については、今まで訪問してきた地域の取り組み事例においても共通していることを改めて認識することができた。それらの地域では「地道に」「粘り強く」「地域の共感」等を基本として、多くの団体が連携しながら様々な地域課題に取り組み、多くの成果を上げている。

そうした視点を含めて、「地域に根ざしたまちづくり協議会」や「新たな課題や動向を踏まえた、今後の姪浜のまちづくりの展開方策」についても提案させていただいた。決して新しい提案ではないが、姪浜でのまちづくりの実践を踏まえた筆者の率直な提案である。姪浜だけでなく、各地域でまちづくりに関わる方々に参考にしていただければ幸いである。

特に、筆者が10年間在籍した唐津街道姪浜まちづくり協議会においては、今までの活動内容と成果、まちづくりの考え方、組織のあり方等を自ら振り返り、姪浜を取り巻く新たな課題に真摯に取り組み、地域の共感を得ながら活動を推進していったほしい。まちづくり協議会に与えられた使命は大きいのである。

この他、公務員（福岡市職員）でもあり、建築士でもある筆者が業務の枠を超えて地域づくりや景観づくりに取り組んできた経験を踏まえ、公務員や建築士の皆さま方へ伝えたいことをメッセージという形で添えさせていただいた。

さらに、人生100年時代に筆者ができる身近な取り組みとして「小さなまち旅の薦め」をエッセイとして紹介させていただいた。インターネットの発達した現在においては、その地域や場所に行かなくてもいろいろな情報を入手できるが、時間をかけてその地域や場所に行く移動の過程でいろいろなことを想像し、思考を深めることができる。また、実物を見て空間を体験し地域の方々と対話することで、新たな考えが生まれ、地域づくりのヒントを得ることができる。近代建築の教科書と呼ばれる「空間 時間 建築」（ジークフリード・ギーディオ著）のタイトルを引用するわけではないが、情報化時代の地域づくりにおいてこそ「空間 時間 旅」の視点が求められているのではないだろうか。

今回は、平成28年度作成の活動記録の要点整理や、筆者が実際に訪問した地域の取り組みを踏まえた提案という形にとどまったが、今後、「地域づくりを巡る小さなまち旅」の訪問地の情報や感想を加えながら、機会を見つけて「まちづくり読本」としてわかりやすく編集していきたいと考えている。

筆者は平成30年3月末で福岡市役所を退職するが、これまでの32年にわたる市役所での業務経験（景観づくり、広域連携、空家対策、耐震対策等）や姪浜での10年間の精力的なまちづくり

活動、そして学生時代から続けている小さなまち旅の実践等を踏まえ、今後も執筆活動や講演活動等を通して、いろいろな地域の「身近な地域資源を活かしたまちづくり」を支援していきたいと考えている。筆者が伝えていきたいことは、「それぞれの地域の風土・歴史・文化を活かしたまちづくり」「こだわり、おもてなし、本物志向の地域づくり」、そして「それを進める地域内の各団体の協働・連携のあり方」である。

最後になりますが、今回の研究に当たりましては、まちなみネットワーク福岡に所属する団体の皆さま、筆者が訪問した際にご教示いただいた団体や役所の皆さま、姪浜という素晴らしいフィールドと活動の機会を与えていただいた姪浜の関係者の皆さま、これまでの活動を支援していただいた福岡市役所関係部局の皆さま、そしてお世話になったすべての方々にこの場をお借りして感謝の意を表します。

また、平成28年度に引き続き、今回も筆者のとりとめのない研究を会員研究として認めていただき、ご支援いただきました(公財)福岡アジア都市研究所の皆さまに謝意を表します。

平成29年12月

参考文献等

■参考文献、引用文献

【姪浜関係】

○(公財)福岡アジア都市研究所

会員研究(平成28年度) 「身近な地域資源を活かしたまちづくり活動記録～姪浜での10年の実践活動を中心とした、建築と地域づくりへの想い」

<http://urc.or.jp/kaiin>

○唐津街道姪浜まちづくり協議会

・「歴史散策マップ」(平成20年3月発行)

・「海恋のまち・姪浜 まち歩きマップ」

(平成23年1月発行、平成25年4月改訂、平成28年3月改訂)

・「唐津街道姪浜 地域の魅力資源集(本編及び概要版)」(平成20年3月作成)

・姪浜の魅力資源&まちづくり活動紹介資料「地域の誇り&まちなみ育てプロジェクト～姪浜の宝を福岡市民の宝に！」(平成28年3月)

・「かわら版」

創刊号(平成22年9月発行)～第9号(平成27年11月発行)、号外(平成25年10月発行)

・「元気!姪浜計画」(平成23年2月策定)

・「姪浜まち旅プロジェクト計画」(平成28年3月策定)

・第20回「住まいとコミュニティづくり活動助成(一般助成)」申請書(平成24年1月作成)

テーマ:姪浜ブランドを活用した町並みとコミュニティの再生

・第21回「住まいとコミュニティづくり活動助成(一般助成)」申請書(平成25年1月作成)

テーマ:人のつながりとまちの元気を育む「日だまり」づくり

○唐津街道姪浜まちづくり協議会・唐津街道姪浜景観づくり委員会

・「姪浜景観づくり計画」ステップ1(平成24年6月策定)

・「姪浜景観づくり計画」ステップ2(平成26年3月策定)

・「姪浜景観まちづくり宣言～姪浜の宝を福岡市民の宝に!～」(平成26年3月策定)

・「姪浜景観づくりの手引き」(平成26年10月策定)

・平成27年度ふくおか地域貢献活動サポート事業 協働助成事業(テーマ型)企画提案書
(平成27年4月、関係団体協議用として作成)

テーマ:全国に誇る身近な歴史資源「探題塚」を活用した環境保全活動

【事例紹介関係等】

○福岡市

・「福岡市都市景観情報誌 彩都」No.4(平成11年2月発行)

・「御供所都市景観形成地区 景観形成ガイドライン」(平成11年3月発行)

・「御供所地区 都市景観形成地区での取り組み」(平成20年11月作成)

○福岡都市科学研究所「URC」Vol.50(2001冬号)

・「こだわり、もてなしのまちづくり～小布施町と長野市の地域づくりを巡る旅～」

- 村上のまちづくり 案内人 国交省認定 観光カリスマ 吉川真嗣HP
<http://www.k-shinji.info/index.html>
- (公社)都市住宅学会「都市住宅学92号 2016winter」地域短信“行政に頼らない、村上市民の地域活性化への挑戦～町おこしイベントから景観づくり、空家再生まで～”
- 村上町屋商人会「城下町村上 町屋の人形さま・町屋の屏風まつり」(平成15年9月発行)
- 横手市HP「奥ゆかしき商家の町並み ますだ」
<http://www.city.yokote.lg.jp/tokusetsu/masuda/>
- 増田「蔵の会」発行「写真集 増田の蔵」(平成24年10月発行)
- 八女市 HP「八女福島の町並み(歴史と保存の取り組み)」
<http://www.city.yame.fukuoka.jp/shisei/10/1457320333336.html>
- 八女町家ねっと HP「八女町家と八女町家ねっとについて」
http://yame-machiya.net/about_machiya.html
- 第5回九州町並みゼミ八女福島大会&第5回まちなみフォーラム福岡 配布資料(平成29年9月)
- (一社)日本建築学会 2017年日本建築学会文化賞 選考経過
「町家の再生と活用を通じた町並み保存と地域活性化の継続的活動」
https://www.aij.or.jp/images/prize/2017/pdf/8_award_001.pdf
- NPO 法人小保・榎津藩境のまち保存会「小保・榎津藩境のまち保存会 活動のあゆみ」
(平成29年9月)
- 津屋崎千軒海とまちなみの会 提供資料(平成29年10月)
- (一社)内野地区活性化協議会 提供資料(平成29年12月)
- 第3回まちなみフォーラム福岡 in 内野宿 配布資料(平成27年11月)
- 長崎市 HP「長崎市外海の石積集落景観」
<http://www.city.nagasaki.lg.jp/shimin/190001/192001/p026965.html>
- 天草地域観光推進協議会「Dive into AMAKUSA」
天草五橋・雲仙天草国立公園・崎津集落 記念号(平成28年夏発行)
- (株)新建築社「日本の家 1945年以降の建築と暮らし」(平成29年7月発行)
- 国立西洋美術館「ル・コルビュジェの芸術空間 ー国立西洋美術館の図面からたどる思考の軌跡」
(平成29年6月発行)
- アジール・フロタタン再生展実行委員会「アジール・フロタタン再生展 ー浮かぶ避難船 ル・コルビュジェが見た争乱・難民・抵抗からー」(平成29年8月発行)
- 安藤忠雄建築展実行委員会「安藤忠雄展 ー挑戦ー」(平成29年9月発行)
- 荻谷勇雅・西村幸夫編著「歴史文化遺産 日本の町並み(上巻)」(平成28年1月発行)
- 荻谷勇雅・西村幸夫編著「歴史文化遺産 日本の町並み(下巻)」(平成28年3月発行)
- 文化庁「重要伝統的建造物群保存地区一覧」
http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/hozonchiku/judenken_ichiran.html
- ア・ラ・小布施著「遊学する小布施 信州・小布施コンセプト&ガイド」(平成9年4月発行)
- みのう悠々交流連絡協議会「みのうの豆本 うきは・吉井・たぬしまる・久留米市耳納北麓地区観光ボランティアガイド」(平成13年発行)
- NPO 法人シニアネット久留米 デジタル・アーカイブ 「みのうの豆本」
- 日本フットパス協会 HP「フットパスとは？」
<http://japan-footpath.jp/aboutfp/>

- (仮) 唐津夢街道「宿場通り」ネットワーク協議会
唐津夢街道「宿場通り」ネットワーク協議会宣言(案)(平成20年11月)
- アクロス福岡文化誌編集委員会「街道と宿場町」(平成19年1月発行)
- 安藤達朗著「いっきに学び直す日本史 古代・中世・近世 教養編」(平成28年3月発行)
- 月刊「地方自治職員研修」2015年1月号
- (公社)日本建築士会連合会 会誌「建築士」2015年3月号
- NHK ドキュメンタリーにっぽん紀行「ペダルを踏んで届ける元気～熊本 自転車販売のケーキ職人～」(平成29年8月14日及び平成29年12月25日放送)
- 東浩紀著「弱いつながら 検索ワードを探す旅」(平成28年4月発行)

■新聞記事

- 西日本新聞
 - ・「九州の街歩き隊 福岡市西区姪浜 唐津街道の歴史巡る」(平成21年11月22日)
 - ・「宿場町の歴史伝え日本一」(平成25年10月23日)
 - ・「風」よそもん視点生かす(平成25年11月18日)
 - ・「まちづくり優秀賞に」(平成26年12月10日)
 - ・「景観保護へ建築届け出厳格化」(平成27年9月1日)
 - ・「亡き妻重ねるイチョウ並木 広川町の丸山さん 植樹20年、名所に育つ」
(平成29年11月16日)
- 朝日新聞
 - ・「灯明空間 響く音色」(平成21年9月3日)
 - ・「熊本地震で傷ついた町屋 美術館へ」(平成29年5月26日)
- 毎日新聞
 - ・「古い町並み 地域の財産に」(平成26年1月31日)
- 読売新聞
 - ・福岡西かわらばん「姪浜大好き落書き消し隊」(平成26年4月5日)
 - ・福岡西かわらばん「世界回るヨットマン定住の夢」(平成26年11月29日)
 - ・「魅力発信に都市景観大賞」(平成27年6月2日)

■掲載写真

※特記なき限り「本報告書の写真はすべて筆者撮影(筆者が唐津街道姪浜まちづくり協議会在籍中に協議会関係者から提供してもらった写真も一部含む)」である。

(公財)福岡アジア都市研究所 会員研究員 (福岡市職員)
唐津街道姪浜まちづくり協議会 初代事務局長
大塚政徳

【連絡先】

〒819-0013

福岡県福岡市西区愛宕浜 2 - 3 - 2 - 6 0 1

TEL & FAX : 092-882-3831

携帯 : 090-7929-7758

e-mail : la-mound.m.63@iwk.bbiq.jp